

過キ上告ノ日限モ濟ミタルトキハ別ニ非常ノ道ヲ以テ故障ヲ申立ルルアリ之レヲオロエキスタテアルチ子ールト云フ

久席裁判トナリタル後被告人出テ其宿所尋容易ニ尋子得ヘキノ原告人并使吏探索セサルノ證アルトキハ原告人ニ掛リ償金ヲ求ムルイモアリ併シ此事甚稀ナリ

以下本條ニ基キ何レノ裁判所へ出ツヘキヤヲ説ク

人權ノ一ニ付テハ原告人ノ住所ノ裁判所へ

司法省

出ツヘキハ原則ナリト雖ルソノ人ノ住所住居ノ知レサルニ於テハ何レノ裁判所何レノ檢事へ出スヘキヤ

日本人ニテ佛國へ行キ佛國ニテ契約ヲナシソノ後日本人ハ歸朝セシトキハ佛國ニテ裁判ヲナスノ權アリト雖ル三百餘ヶ所ノ下等裁判所アリ何レノ裁判所ニテ可ナルヤ

一説ニハ巴里ニテ契約ヲナシタルトキハ巴里ノ裁判所ニテ可然ト云フ説マリ然レトモ原告被告人トモ旅行中ニ契約シタルトキハ

再ヒソノ地へ行カサルヲ得ス難渋ナリ又不
慥ナリ

時ニヨリ瀛車中ニテノ契約等ハ何トス可キ
ヤ一二語中既ニ二三里モ行キ過クルナリ
契約ヲナシタル地トスルトキハ原告被告ト
モ其地ニ居テス且原告人ハ入費ヲ掛ケ其地
へ行カサルヲ得ス

又一説ニハ被告人ノ住所ノ知レサルトキハ
原告人ノ住所ノ裁判所ト云フ説アリ

此説可ナリトス被告人ノ住所ノ裁判所ハ原

司法省

則ナレ尺何レニモテモ一方ニテハ入費ヲ掛
ケサルヲ得サルモノナルニテハ双方ニテ入費
ヲ掛ルヨリハ寧ロ一方ニ掛カル方宜シト
ス

法理ヨリ言ヘハ後説可ナリ實事ヨリ言ヘハ
何レニテモ可ナリ何トナレハ契約ハ必テス
原告人ノ住所へ来リテ為ルモノナリ故ニ二
説トモニ行ハレテ差支ナシ

一説ニ確定セズ實況ニヨリ二説ノ内便利ナ
ル方ヲ用ズルトシテハ如何

二説ノ内何レニテモ原告人ノ擇ミニ依テ為
スト定ムルトキハ可ナリ

現地ハ定マリナシ裁判官ノ見込ニ任カス
外ニ數説アリ

方一甲¹ウ井ンナ^レニアリ巴里(書翰ヲ以テ金
ヲ借りタルトキハソノ契約ハ何レノ地ニテ
成リタルヤ

右ハ貸シタル地ニテ出来タルコハアラス兩
地ニテ出来タルモノナリ何トナレハ契約ハ
双方承諾シテ成ルモノナレハナリ

司法省

抑金銀等ノ貸借ハ承諾ノミニテハ契約ノ成
ルモノニアラス貸主ヨリ金ヲ借主へ送達
セサレハ契約ニハナラサルナリ

タトヘハ佛人ト外國人ト結ヒタル契約ニ付
テノ訴訟ハ巴里ニテ裁判ヲナス一ハ民法第
十四條ニ由條アリ

故ニ前文ノ場合ニ於テウ井ンナノ裁判所へ
出ツルモノニアラス

故ニ原告人ノ住所ノ裁判所ト定マルナリ
若モ日本¹佛ニアリ佛人ニ金ヲ借シタル一

トニ付テハ訴訟ハ佛ニアル内ハソノ住居ノ
裁判所ニ訴フルナリソノ日本人既ニ帰朝セ
之上ニ訴フルトキハ日本ノ法律改正ナリタ
ル上ハ日本ノ裁判所へ訴フヘシ
現今ノ法律ニ
テハ能ハス

第六十九條 第九項

佛蘭西本國外ノ佛蘭西領地ニ居住スル者又ハ
外國ニ居住スル者ヲ呼出ス時ハ訴訟ヲ審判ス
ル裁判所ノ檢事ニ呼出状ヲ送達シ其官吏其正
本ニ捺印ヲ為シテ其副本ヲ本國外ノ領地ニ居
住スル者ニ付テハ海軍事務宰相ニ送達シ外國

司法省

ニ居住スル者ニ付テハ外國事務宰相ニ送達ス
申シ

佛ノ領地ナレ氏大陸外ニアル佛領地ヲ云フ
即チアルゼリサイゴニレナリ

此項ノ如キ場合ニ於テハ檢事ニ呼出状ヲ送
達ス

一葉ハ檢事ノ手ニアリ一葉ハ兩宰相ノ内ヲ
リ被告人ニ送達ス

物權ナレハ佛國內ニテ裁判スルトモアル可
シ

若し人推ナレハソノ人ノ住所ノ裁判所へ訴
ヘサルヘカラス

コ、ニ難件アリサイゴンニ居ル人ナラハ海
軍宰相へ送ルニ及ハス即チサイゴンへ行
キ直チニソノ地ノ裁判所へ訴フルナリ

佛ノ飛脚船ニテ現場サイゴンニテ訴訟ヲナ
セリ然ルニソノ被告人ヲ呼出スニ佛国ヨ
リ呼出状ヲ送ルニアラス直チニソノ地ニテ
呼出状ヲ送ルナリ

司法省

判所ニ揃ハサルヲ得サルトアリタトヘハ被
告人ノ内一人巴里府ニアリ其餘人屬地又ハ
外國ニマル時ハ原告人ノ撰ニヨリ巴里府裁
判所ニ訴出スリノ時ハ此條ヲ用テ海軍宰相
又外務宰相へ送達シテ夫ニ其呼出状ヲ届ケ
シム

目下ボアソナード日本ニマリ被告人トナ
リタルトキハ外務宰相ヨリ日本へ送達スル
ナリ

万一巴里人サエゴンへ遊ヒニ行キタルトキ

巴里ニ家族アリソノ時ニモサエゴシヘ呼出状ヲ送達スヘキヤ

一時遊ヒニ行キタルトキハ巴里ノ住所ヘ送達ス尤モ親族朋友等ニテ猶豫ヲ願フナリ

併ニ至急ノ一ハ猶豫スヘカラス代理アレハ代理又ハ朋友ニテ防タナリ

万一事件ニヨリ本人ニアラサレハ能ハサル一アルトキハ猶豫ヲ願フナリ

猶豫ヲ願ヒタリトモ原告人ニテ承知セサル一アリ

司法省

然レトモ本人ノ未ダ知ラサルトキハ欠席裁判スル一能ハス

日本ニ雇ハレタル等ニテ歸ル一能ハサルトキハ如何スヘキヤ

代理ヲ立テ置クナリ

佛國ニ於テハ一旦暇ヲ政府ヨリ受テ外國ヘ行キタルモノハ訴訟ノ為メニ歸國セヨト云フ權ハ無之但シソノ期限外ニ政府ノ替ハリタルトキハ格別ナリトス

併ニ刑事ニ於テハソノ政府ヘ呼ヒ受セラ頼

ムーアリ

ボアソナードハ官負ニテ三ヶ年間日本来ルモ
ノユヘ三年内ハ呼ヒ返ス一能ハス
平人ナレハ一生モ呼ヒ返ス一能ハス

官負ハソノ限内歸ラサルモ自由ナリト係氏
ソノ官ヲ失フ

三年ノ期限外更ニ滞留シナシ度トキハ本国
政府へ願フナリ万一允許ナキトキハ官ヲ免
セラレ度ト云フマテナリ

司法省

六月五日

第七十條

前二條ニ定メタル規則ニ循ハサルニ於テハ其
呼出状ノ効ナカル可シ

過日來說キタル如ク呼出状ノ効ノアルトナ
キトニ付テハ正條中ニ効ナシト云ハサルモノ
ハ効ナキモノトスルニアラサルナリ

此條ニ於テ別段ニ効ナキトシ一條ニ立テタ
ルモノハ元ヨリ前二條ノ每项ニ入ルヘキモ
ノナレトモ餘リ繁雜ナルコトヘ惣括シテ簡略

司法省

ニシタルモノナリ

呼出状ノ効ナキトハ第六十一條第六十四條
第六十五條第六十六條第六十八條第六十九
條中ノ諸件缺ケタルトキナリ

祭日ニ出ス呼出状又ハ價ヲ記セサル呼出状
ハ効ナキニハアラス過日說キタル通りナリ
使吏ノ錯誤ニテ管轄違ヒノ裁判所ヘ呼出状
ヲ以テ被告人ヲ呼出スニアリ

タトハハ人權ニテ被告人住所ノ裁判所ニ呼
出スヘキヲ使吏ニテ取違ヘ物件所在ノ裁判

所ニ呼出スルアリ

是等ハ取消トハナラス何トナレハツノ委細
ノ一ハ裁判所ニアラサレハ知ル一ヲ得サレ
ハナリツノ時ハ裁判官ニテ何レノ裁判所ニ
出ツヘシト指示ス一モアリ又被告人ニテ自
カラ此裁判所ニ出ツヘキニアラスト申述フ
ル一モアリ故ニ被告人ハ必ラス呼出サレタ
ル裁判所ニ一應出席セサル一ヲ得ス

里數距離又ハ呼出ノ期限ヲ間違ヘタルト
モ亦取消トハナラス被告人ニテ其間違ヒヲ

司法省

申述ヘ相當ノ日ニ出ツヘシト届ケ置ク時ハ支
レニテ濟ムナリ

第七十一條第七十二條ハ過日説キタリ此ニ
贅セス

第七十一條 使吏ノ過失ニテ呼出状ノ効ナキ
ニ至リシ時ハ其使吏呼出状送達ノ謝金ヲ失ヒ
及ヒ取消シトナリタル訴訟ノ費用ヲ償ヒ且其
時ノ模様ニ因リ原告人ニ其損害ノ償ヲ為ス
可シ

右ハ全ク使吏ノ過失ニ屬スル一ヲ説ク此ノ

過千ハ元ト小ナルモノナレ氏亦大ナルトモ
アリ即チ過日説キタル使吏ノ罰金及ヒブレ
スクリフシヨシノトヲ指シテ云フナリ

第七十二條 佛蘭西國內ニ住居スル者ニ付テ
ハ呼出状ヲ送達シタルヨリ裁判所ニ出席スル
ニ至ル迄ノ定期ヲ八日トス

迅速ニ審判ヲ為ス可キ場合ニ於テハ裁判所ノ
上席人原告人ノ別段ノ願ニ因リ定期ヨリモ更
ニ速ニ被告人ヲ呼出ストヲ許ルスノ言渡ヲ為
シ得可シ

司法省

此條モ過日説キタリ前項ハ呼出ノ定期ヲ
八日トスル迄ナリ後項ハ至急ノ時裁判官ノ
許シヲ得ルヲ要スル迄ナリ

第七十三條 千八百六十二年五月三日如左換
フ佛蘭西本國外ニ在ル者呼出ヲ受クル時ハ其
呼出ヲ受ケタルヨリ裁判所ニ出席スルニ至ル
迄ノ期限左ノ如シ

遠方ニ居ルモノハ出席期限ノ延ヒルトヲ云
フ

遠近ノトニ付テハ日本ニテハ此ノ裏返シニ

法ヲ立ツルハ夫レニテ可ナリ

佛ノ遠キ所只日本ノ近キ所口ナレハナリ

第七十三條 第一項

「ユルス島」「アルセリ」「不列顛諸島」以太利佛蘭西ニ隣接シタル國ニ在ル者ニ付テハ一月ノ時間此ニ記スル所口ノ地方ニ於テハ八日ノ代リニ一ヶ月ノ時間トス

普國ハ近時連邦トナリタリ其國內ノ里數ヲ佛國ヨリ算スルトキハ極テ近キ隣國ト比スレハ里程ノ遠キ所口モアレ氏佛ト隣

司法省

邦ナル故ツ以テ全國中都テ一ヶ月トス

若シ普ニテオ、ストリヤヲ取連邦トガサハタトヒ其國廣大ナリト雖天一邦トナル故ニ其期限ツ一ヶ月トスソノ中間ニ別

國ヲキユヘナリ

日本ヨリイッ、魯西亜モ亦一ヶ月トス可シ壤地隣接スレハナリ然レ氏魯ハ大國ナリ其歐洲ニ接スル所マテハ太夕遠ニ其期ヲ述ヘサルヲ得ス

元來此期限立テ方ハ不都合ナリ隣接ノ國

ト云フモ皆近キ處ニアラス前項ノ通り隔遠ノ地方アリ

日本ヨリ亞米利加ハツトヒ對岸ノ國ト雖モ其間ニ大洋ヲ隔テタルユヘニ隣接ニアラス此項ニ「カルス」又ハ英國等ヲ入レタルモノハ其間海アレ氏接近ノ國ナレハナリ抑此法律ノ例ニ循ヒ距離ヲ以テ立ツル片ハ公平ナルヘケレ氏其外國里數ニ至リテハ中心人ニ能ク知り得ル一ニアラス故ニ大略一ヶ月又ハ何ヶ月ト定メタルナリ

司法省

遠方ニアルモノ呼出ヲ受タル時巴里等ニ其朋友アリテ事情ニヨリテハ日延ヲ願出ル一アリ其時裁判官ニテ拒ム一モアレ氏大概之ヲ許ス

一ヶ月ト記載スルハ被告人ノ手ニ呼出狀ノ落タル日ヨリ起算スルユヘ實地差支ニハ成ラサルナリ其三十日間ニハ名代ヲ出ストモ代書師ヲ雇フトモ充分ニ出来ル一ナリ

極メテ遠方ナレハ外務卿ヨリ送達シ其屬地ナレハ前ニ説キタル通り海軍卿ヨリ送達ス

ル一故其送達ハ其被告人アル地ノ全權公使
ニ達シ公使ヨリ岡士へ達シ岡士ヨリ其當人
ニ渡ス一ナレハ其送達ニ不分明ナル一ナ
シ

公使ニ送ル呼出状ハ即千寫シナリ本書ハ通
例裁判所ニアリ

今ポアツソナート自カラ其送達ノ仕方ヲ
考へ居ルナリソノ方ヨロシキト思フナ
リ

何レノ國何レノ村町ニテモ經緯度中ニ總括
司法省

セサル地方ハ之レナレソノ經度ニ付テハ幾
日緯度ニ付テハ幾日ト起算スル法ナリ佛國
ニテ使吏ハ大抵度数位ハ知リ居ル一ニテ
地圖ヲ見テ直チニ算ヲ立ル一ヲ得ルヘシ

緯度一度ハ佛ニテ廿七八里ニナルナリ英
ニテハ少し寡ナカラフニカ故ニ一緯度毎ニ
二日ヲ増ス一トナス 經度モ亦然リ

佛國ニテ一アル口ニ付キ八日ヲ間
名村ト問答アリ傍人知ル能ハス元ト立テワ
何ヲ根元ニ立ツルカヲ云フ
レヨリ一度ニ付テ三日トナシタテハ充分ナ

ラシ

三日トナセハ三日本ノ七厘半程リヤメートル毎一日ノ

割合ニ當ルナリ

日本ニ於テハ佛ト違ヒ未タ道路ノ便ナキ故
別ニ猶豫ナカルヘカラス

佛ニ於テモ古ヘハ三三ミリヤメートルナリ今
ハ五五ミリヤメートルナリ千八百六十三年ノ改正ナリ

古ヘ訴訟法ヲ編成セシ頃ハ通信不便利ナリ
之故其里程ヲ短カク定メタリ今ハ鐵道縱横
甚タ便利ナルエヘニ其里數ヲ増シタリ

司法省

凡ソ法律ハ開化ノ度ニ循ヒ變化スルモノニ
テ其進歩ノ度ニ應ヒ時ニ改正セサルヘカ
ラスタトヘハ旅行ヲ徒歩ニテスル時代ハ一
日三三ミリヤメートルモ近トセサレ氏鏡道ノ
便開クレハ一日五五ミリヤメートルモ遠ニト
セス若シ此後空船ニテ往来スルニ至ラハ一
日十十ミリヤメートルトシテモ可ナラシ

第七十三條 第二項

其他歐羅巴又ハ地中海ノ濱岸又ハ黑海ノ濱岸
ニ於ケル國ニ在ル者ニ付テハ二月ノ時間

歐羅巴トハ歐洲中ノ近國ヲ云ヒ又地中海ノ
濱岸トハ「チニス」^{「五チプト」}等ノ地ヲ云ヒ又
黒海濱岸トハ歐洲トルコノ北邊魯西亞ノ南邊
等ノ地ヲ摠テ云フ

第七十三條 第三項

歐羅巴外ニテ「マラッカ」ノ海峡ヨリ近ク又ハホル
ン岬ヨリ近キ地ニ在ル者ニ付テハ五月ノ時間
チブラルタルノ瀬戸ヲ過クレハ此中ニ入ル
マラツカ ^{「亞西盤」}「アミアトル」
カツプロホルン」ヲ越ヘテハ此外ナリ但シ南ア

司法省

メリカノ海岸ハ惣テ此中ニ入ル
此項ハ甚ク曖昧ナリ之レヲ以テ看ルトキハ
アフリカ海岸ヨリ南アメリカ及ヒ北亞米利
加ノ地モ皆此中ニ入ル

第七十三條 第四項

「マラッカ」ノ海峡及「ソント」ノ海峡又ハホルン岬ヨリ
遠キ國ニ在ル者ニ付テハ八月ノ時間
但シ海上戦争ノ時ハ海外ニ在ル者ノ為メ其定期
ヲ倍ス可シ

「マラカ」云々ト云フトキハ支那日本モ此中ニ入ル

漫ニ廣クミテ的實ナラス故ニ經緯度ノ說然
ル可シト思フナリ未文戰ノ節ハソノ期限ヲ
倍スルトアリ五ケ月ハ十ケ月トナリ八ケ月ハ
十六ケ月トナル迄ナリ

第七十四條ノ佛蘭西國外ニ住所アル者佛蘭
西ニ在ル時呼出シ受ケタルニ於テ佛蘭西國
内ニ住所アル者ト同一ノ定期内ニ出席ス可シ
但シ別段ノ道理アリテ裁判所ニテ其定期ヲ
更ニ延シタル時ハ格別ナリトス

若シ佛國外ニ住所アルモノニテモ佛國內ニテ

司法省

見當レハ本國ニ住所アルモノト同様ナリツ
ノ時ハ被告人自身ハ外國ニ住居アルヲ以テ
外國ヨリ呼出ス期限ニ出ツヘシト云フヲ得
ス

以上ノ期限ハ之レヨリ短カクスルコトハ出来サ
レトモ裁判官ノ見込ニテ猶豫ヲ與フルコトハ出来
ルナリ

原告人ヨリ日限ノ違筈アルトキ被告人ニテ
定期マテ出席ヤスシテ可ナリト云フ時ハ出
テスシテ可ナルヤ又ハ手數アリヤ

ソノ違算ノ庶ヲ申立定期ニ出席ス可キ旨
ヲ書翰ヲ以テ裁判所へ書キ送クルナリ
タトヒ被告人ニテ届出テサル氏元ヨリ裁判官
ニテ呼出状ヲ檢シ違算アルトキハ被告人ハ
欠席裁判ニハセス定期マテハ待チ居ルナリ

第七十四條 餘論

プレスクリプション三十年期限ノ終リタル後原
告人ヨリ訴へタルトキ被告人ニテハ最早三十
年期限終リタルニ付プレスクリプションノ權
アルナリヲ申出ルナリ萬一之ヲ申出サレハ滿

司法省

期ノ權ヲ失フヲ以テ相當ノ裁判ヲ受ケ
更ニ勘定ヲ立テサル可カラスソノ然ル所以
ハ治産ノ禁中又ハ幼年中等ハ三十年ノ
期限ニ算入セスタトハ治産ノ禁ヲ免
カレタル氏又ハ丁年ニ至リタルトキヨリ再ヒ
起算スルナリソレ等ノ差引ハ裁判官ハ知ラス
故ニ必ス其旨ヲ申出サル可カラス

第七十五條以下

第七十五條以下裁判言渡マテハ甚長シ然
レ氏ソノ間ハ格別肝要ノトナシ仍テ大意ノミヲ説

ク可シ裁判言渡ハ肝要ナルモノニ付之ヲ委シ
ク説カン

呼出状中ニ日限八日ノ内ニ出席セサル可カラス
ト云フハ決シテ自分ノ體ヲ以テ裁判所ニ行ク
ニハアラス代書人ヲ立ルナリ

被告人呼出状ヲ受クレハ右ノ日限中已レノ
代書人ニ立テソノ代書人ニテ原告人ノ代書
人ヘツノ趣ヲ云ヒ遣ハセハソレニテ足レリ之レ
ヲ出席シタルト云フナリ

被告人ニテ手翰ヲ送ルニ及ハス代書師ヨリ

司法省

手翰ヲ送ルナリ

代書師ヨリ代書師へ手翰ヲ送ルニハ裁判
席へ出ウル使吏ニテ送達シソノ賃ヲ取ル

右八日ノ期限内ニ代書師ヲ立ソレヨリ十五
日内ニ被告人ヨリ原告人へ答辯書ヲ遣ハ
スナリ 第七十七條見合

過日説キタル如ク訴訟ノ證據又ハ訴訟ノ目
的トナルヲ書テ送ルナリ之レモ代書師ニテ
取扱ヒ本人ハ手ヲ付ケス

被告人ヨリ答辯書ヲ送ルニ此金ハ既ニ拂

ヒタリト云フトキハソノ受取書ヲ
代書師へ送ル一モアリ又送リテ
キハ被告ノ代書師ノ書記局へ
原告ノ代書師ヨリ被告ノ代書
相談ニ来ルトキ之レヲ示ス一モ
ヨリ原告人ニテ八日内ニソノ答
ス

元ヨリ原被告人ニテ答弁書ヲ出
ルモ勝手次第ナリ之ヲ出サレキハ
送りテ裁判ヲ乞フナリ

司

此章ハ此外格別肝要ナル一ナシ
第八十三條 左ノ訴訟ハ檢事ニ數
元ヨリ訴訟ハ私法ニテ人民保護
ノナリ故ニ檢事ソノ中へ立入り
ヘカラササル一ナリ

訴訟ハ一人ニシテ私事ナレバ時ニ
公益ニ關スル一アリソノ時ハ檢
必ス立入ラサルヲ得スソノケ條
ク

幼年治産ノ禁ヲ受ケシ人既ニ婚

ヒタリトニフトキハツノ受取書ヲ代書師ヨリ
代書師へ送ル一モアリ又送リテ不都合ナルト
キハ被告人ノ代書師ノ書記局へ送り置キテ
原告人ノ代書師ヨリ被告人ノ代書師ノ有ニ
相談ニ来ルトキ之レヲ示ス一モアリワレ
ヨリ原告人ニテ八日内ニツノ答辯書ヲ出
ス
元ヨリ原被告人ニテ答弁書ヲ出スモ出サ、
ルモ勝手次第ナリ之ヲ出サ、ル中ハ直ニ招書ヲ
送りテ裁判ヲ乞フナリ

司法省

此章ハ此外格別肝要ナル一ナシ

第八十三條 左ノ訴訟ハ檢事ニ報告スル事

元ヨリ訴訟ハ私法ニテ人民保護ノ肝要ナルモ
ノナリ故ニ檢事ソノ中へ立入リ保護セサル
ヘカラサル一ナリ

訴訟ハ一人ニシテノ私事ナレバ時ニヨリ一般ノ
公益ニ關スル一アリソノ時ハ檢事ソノ中ニ
必ス立入ラサルヲ得スツノケ條ハフ、ニ掲
ク

幼年治産ノ禁ヲ受ケシ人既ニ婚セシ婦等ノ

事ニ付テハ檢事之レヲ保護セサルヲ得ス
第八十三條ノ第一項ヨリ五項マテハ公益ニ
係ル第六七項ハ能力ノナキモノニ係ル
而後項ヲ逐テ説カントス

第八十三條 第一項

國ノ安寧ニ管シタル訴訟官府ニ管シタル訴訟
官ニ屬シタル土地邑并ニ公舎ニ管シタル訴訟
貧人ノ為メ公ケニナシタル贈遺ニ管セシ訴訟
國ノ安寧ニ關シタル訴訟ハ人民ノ私益ト公
益ニ係ルナリ

司法省

タトヘハ武器ヲ人民互ニ取扱フ之レ私益ナ
リ併武器ノ取扱ハ國ノ禁ムルモノナリニ之レ
ヲ取扱フハ則チ國ノ安寧ニカ、ル故則チ
一般ノ公益ニ關スルナリ

此處原文ヨロシカナラス

國ノ安寧ニ管スルト記スルハ物ニノミカ、
ル文ナリソレニテハ意セマシ譯文ニ於テハ
物モ事モ包含スル文ナリ譯文ノ方ヨロシ
タトヘハ刑事ノ訴ヘアリ之レハ全ク國ノ安
寧ノミナリ

日本ニ於テ未タ外國人一般ニ行ク能ハサル
地アリ然ルニ日本人ニ於テ外國人ノ行クヲ
得サル地ニ於テ約束スルコトアリ之レ二人ノ
約束ト雖モ一般ニ関シ危キコトヲ生スヘ
シ之レ私益ヨリ公益ニ関スルナリ政府ニ管
シタル土地等ニ於テハ人民一般ノ訴訟ト同
様ナリト雖モ此時ハ換事立入ルナリ
立入ト云フ
換事其事
件ニ付意見ヲ述ル
事ヲ云フ以下准之
ソノ縣令ハ原告被告トナルト雖氏換事立入
ルナリ

司法省

邑ニ於テモ亦人民一般ト同シ邑モ人民モ害
アリテハナラサル為メニ換事之レニ立入ル
公舎トハ貧院病院等ナリ之レ亦人民一般同
様ノモノナリ之レニ管スル訴訟ニハ換事立
入り雙方ノ為メニスルナリ
人ノ死スルトキ貧人ノ為メ公ケニ贈遺スル
コトニ付キタル訴訟ニ於テハソノ死スル人有
餘ナクモ親屬ノ為メニナラサルカ又ハ有
餘アリテモ親屬ニテ渡サ、ル等貧人ノ為メ
ニナラサルカイツレ双方ノ為メニ換事立入ル

ナリ

此七項ハ檢事ノ義務ナリ其他ハ此七項ノ後文ノ如ク檢事ヨリ立入ル一モアリ

又裁判官ヨリ立入レト云フ一モアリ

裁判席ニハ檢事ハ必ラス陪席スルナリ何ト

ナレハ不意ニ立入ルヘキ事ノ生スル一アリ

又民事ノ半ハヨリ刑事ノ起ル一アリ但し裁判官ニテモ

見込ヲ相ハス檢事ニテモ見込ヲ申立サルトキハ黙シテ止ムノミ

獨逸ニテハ擔當ノ訴訟ニアラサレハ檢事ハ

出席セズ併シ出席セサレハ不都合ノ一アリ

司法省

万一訟庭ニテ一人忿怒生シ裁判官へ靴ヲ

投ケ付ケル一アラハ誰レカソノ罰ヲ請フ

ヘキヤ檢事ナリ

七年六月十日

第八十三條 第二項

人ノ身上及ニ後見ノ事ニ管シタル訴訟

此項ハ人ノ身上即チ身分證書ニ關スルトナ

リ身^{エグラー}ノ上ト云ヒタルノミニニテハ其意狭

シト云フ説アリ

「エタシビル」ニ關スルノ第一ハ人民死生ノ

「ニテ其生レタルトキ一通ノ證書ヲ作

リ死シタルトキ又一通ヲ作ル

「フノ「エタシビル」ノ争ヒハ何時ニ之レヲ作り

司法省

タルカ又其有ルカ無キカノ「ヨリ起ル

其第二ハ國ニ關係スル「ニテ佛カ英カ

ヲ區別スル為メナリ

第三ハ年齢ニ関スル「ニテ第何年何月ニ生

レタルニ付キ其丁年カ幼年カヲ分明ニスル

為メナリ

第四男女ノ區別ニテ何レノ國ニ於テモソノ

權利ハ男女一樣ナラサルナリ

第五人ノ生シタルトキヨリ無病ナル歟

又ハ精神錯乱シタル歟ヲ記セサルヘカラス

第六親ト見認メ子ト見認メルトニテ其私
生公生ニ関セス父ハ誰レ母ハ誰レト記載
スルトナリ

第七相當ノ婚姻ミタル人ノ子ク又ハ相當ノ
婚姻セサル人ノ子カラ記載スルトナリ
以上七件ハ「エタシビル」ノ根元トナルヘキ
大切ノモノナリ

右ヲ簡畧ニイヘハ死生 何國 何年
男女ノ區別

生レタルキ精神ノ有無誰ノ子 婚礼ノ有無
司法省

ノ七件ナリ

死ト生トシニツニ分ツテ八件トス

外ニ一件アリ刑事ニ於テ施體加辱ノ刑
ニ係ルモノハ「エタシビル」ニ書キ入ルヘシ
前ノ件々ヲ合セラ九件トス可シ

「イタリヤ」ニテハ治産ノ禁ヲ受ケタルトシ書
キ入ルナリ佛ニテハ此分欠ケタリ

ソノ書入レヲナスニハ

刑事裁判所ヨリ民生官吏ニ達シ民
生官吏ニテ「エタシビル」ノ書キ入ルヘ

シ

又有期無期ノ刑ハ書ク方可然入獄以下
ハ書クニ及ハス

佛ニテ死刑ニ處シタルモノハ其刑死シタ
ルトハ書セス蓋シソノ親族ノ耻辱ニ十
ラサル為メニス

又其書ヤサル所以ハ婚姻ノ節子ノ為
メニ耻ヲ包ムト云一説アリ

抑トエタシヒルニ人ノ生死婚姻有無
等一般ノトヲ記スル趣意ハ人民ノ契

司法省

約ヲ結フ時等用心ノ為メニ書記スル
トナリ

死刑ニ於テハソノ人ノ終リユヘ更ニ契約
ヲ結フ等ノトナク惣テ關係モナキ工へ
書スルモ用ヲナサスソノ人ノ耻ヲ包ミ書
セサル方然ルヘシ

「エタシヒル」ノトニ付テハ何レノ國ニモ欠ケ
アリイタリヤモ欠ケアリ

日本ニテ之ヲ作ラント欲セハ各國ノ欠ケヲ
受ケサル様アリタシ

タトヘハ婚姻ノ一ハ書ケトモ婿トナリタル
一ハ書カスユヘニ何人モソノ人ハ未タ人ノ
妻ナリト思フナリ

佛ニテモ不都合ヲ生スル一アリ一婦ニテ
兩夫ヲ持一アリ「エタシヒル」ニ書付テナ
キユヘ婿ニナリタルヤナキヤヲ知ル能ハス
終ニソノ婿トナリタル書付ヲ持棄セヨト
云フ一ナシ

又英國人ノ佛ニ歸化スル一アリソノ歸化
シタル時ニ別ニ「エタシヒル」ヲ作り本国

司法省

「エタシヒル」ヘソノ委細ヲ書キ入ル一
ナシ故ニ歸化ノ人民ハ兩國ノ權利ヲ持ツ
等ノ一アリ

此國ノ人トナリタリト云フ一ハソノ本国へ
ハ通達ハセス

ソノ人ノ歸化シタルトキハ「コンセイエイテ
ター」ノ承諾ヲ以テ勅書ヲ作り言渡ス一ナ
リ故ニ其欠ナキヲ要スルニハ其歸化人編
入ミタル國ノ民生官吏ヨリソノ原籍ノ官
吏ヘソノ趣ヲ文通スレハ不都合ナカルヘ

シ

以上ハ「エタシヒル」ノ根元ヲ説キタリ

以下ハ右「エタシヒル」ノ「ニ付テ」ノ訴訟ハ換
事へ告クヘシト云フ「ヲ」ヲ説クヘシ

ソノ「エタシヒル」ニ関スル「ハ初メヨリ起ル
「アリ」又訴訟ノ半ハヨリ起ル「アリ

タトヘハ子ノ父母ニ求ムル訴訟即チ人ニ
已レノ親ナリト訴フル「ニテ」エタシヒル「ニ関
スル主タル訴ナリ

婚姻ノ「ニ付テ」ハ我カ夫ナリ我カ婦ナリト

司法省

訴フル「ハ」ナキ「ナレ」氏婚姻破約ノ訴ハ毎「
之レ」アリ

法ニ適セサル婚姻ニ於テ争ノ生シタル中
ハ裁判官ニテ婚姻破約ヲ言渡ス然レ氏ソ
ノ生レタルトキ「エタシヒル」ニ書入ル「
ナシ

又父母ノ知レサル子ノ父母ヲ尋ヌル「ニ付キ
父母ノ分カリタルトキハ裁判上ニテ其子ナ
リト言渡サレ且子ハソノ言渡ノ書付ヲ所持
スルマテ其事ヲ「エタシヒル」へ書入レス

子ノ親ヲ見認ル事

大ニテ我カ婦ノ子ヲ我カ子ニアラス或通ノ子
ナリト云フ事

婚姻ヲ破約スル事

此三件ハ首タル訴訟トナル

外ニ二件アリ

風癩トナリ治産ノ禁ヲ受ル事

風癩ノ直リテ民推ヲ復スル事

此等ハ大切ノ事ナリ

右ハ私益ト公益ト混ス何トナレハ「エタシヒ

司法省

ルハ私益ナレ氏公益ニ口タルナリ

後見ノ「ニ管シタルトハ後見人ノ不勤ニ因

テ之ヲ退クル事ニ付テハ訴訟ナリ

是レヲ此ノ二項ニ出シタレトモ第六項

ニ知者云々ト有之知者ノ「ト云ハハ

後見人ノ事ニ含ミアルユヘ此所へ出

サストモヨロシ

後見人ハ幼年ノモノニ限ル

佛ノ法律如此不備ナル故ハ此ノ法律

ヲ編集セシモノハ當時皆「裁判上実地ニ

故ニ僅カニ年月ヲ過キ一方ニテ死去スレ
ハ誰モ知ルコトナク只ソノ書付ケアルノミ
コトエタシヒルニハ何某ノ子ト書テアレ
氏後ニ至リマノ子ハ共通ノ子ナリト云
ヒ訴訟トナリフノ子ノ負トナリタルトキ
ハソノ言渡書ヲ其親カ所持スルコトニテ子
コトエタシヒルニ書キ入レサルコトハ其ノコト
タシヒルニハ以前ノ通りソノ人ノ子ニ
ナリ居ルナリ
右等ハ皆「コトエタシヒル」ノ欠ケナリ

司法省

私生ノ子ヲ見認メタルトキハ「コトエタシヒル」
ニ書キ入レルナリ前ニ云フ書キ入レサル
ハ元ヨリ嫡出ノ子ノ親ノ知レサルトキノ
コトナリ

右ハ「ホリス」ニ関スルコトニハ與之行政官吏、
テ世話ヲナシテ書キ入ルヘキナリ之レヲ書
キ入レサレハソノ人一代ノ事蹟分明ナ
ラス

「コトエタシヒル」ニ関スルコトニ付換事ニ告ケサル
ヲ得サルコト左ノ如シ

經歷シタルモノニテ我カ業前ニ依テ作リタル
ルニハナリ

千八百四十年ノ頃佛ノ法學校ヨリ名代トシテ
テデマンブバテノナト出タリツノ節ハ
扱ヒタル法律ハ甚タ宜シ從前曖昧ナル
文意アリテ説キ兼タル一ツモ法學ノカ
ニ因テ充分ニ書キ顯ハシタリ故ニ此頃出集
タル法律ハ今尚ホ稱賛セリ

其後「ナホレオン」三代目ニ「ブールドカウサ」ヨシ
長ラナシタルトムロンブト云フ人ノ作りタル

司法省

「イホテキー」ノ法律其ノ趣意ハ甚タヨロ
シケレ共其編成疎漏ヲ免カレス佛ニテ
一般遺憾ナリト云フ

前ニ私益ナレ氏公益ニ涉ルト説キタルハタ
トハハ

風癩人ヨ一般ノ人ト一同ニ置クトキハ如何
ナル害ヲナスヤモ知ルヘカラス又リノ人ヨ
リ言ヘハ自カラ事ヲ為シテ如何ナル損ヲナ
スヤモ亦知ルヘカラス此等ノ類ヲ云フ

法律ヲ以テ保護スル一此ノ如シト臣氏時ニ

ヨリ狂院中ニマリナカラ治産ノ禁ヲ受ケス
私ノ財産ヲ勝手ニ支配スル一トアリ
高法上澤山ノ仕入寺ニテ一時恍惚トナリタ
ルモノヲ直チニ風癪人トナシ更ニ金談ヨリ
ソノ證人マテ出来ワレカ為メ裁判官ニテモ
真ノ風癪ト認メ在院へ入ル一トナト儘之レ
マリ佛ノ^トホ一フーカシト云フ一婦人マリ三十
歳ナリナリソノ人ノ父ノ死シタルトキソノ
母ニテ嫡男ニ財産ヲ譲リタキ為メソノ婦
人ヲ風癪ナリト訴へ一時ソノ裁判トナリ

司法省

タリ因テソノ婦人控訴シテヨキ代言人ヲヤ
トヒ遂ニ勝チタリ尤モ右婦人ハ少シク風
癪ニ似タル一トナトアリモ故ニ前件ノ訴へニ
及ヒタル一トナリ

ソノ婦人ハ始メ各國へ旅行シタリ因テ各國
ノ語ヲトク覺へ謔太クナリ多分ノ金ヲモ費
ヤシタリ右等ノ慮ヲ以テ風癪ト申出タル
ナリ

「ホアツワナ一トモ其婦人ニ逢ヒタリ尤モ時
ニ異ナル所アルヲ看ルト云フ

第八十三條 第三項

裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味ヲ受クル一ヲ拒ム訴訟

ソノ訴訟ノ品ニヨリテ夫ニ裁判所ノ違ヒアル一ハ過日説キタリ

ソノ裁判所ノ違ヒタルニ付キ必ラスソノ裁判所ノ裁判ヲ受ケヘシト云フトキノ一ツ云フ

拒ムト譯シアレ氏強情ニ抗拒スル一トアラスソノ裁判所ヲ避ル義ナリソノ時ハ此ノ權

司法省

限内ニアラスト了寧ニ云フナリ

ソノ私益ト公益ト関スルト云フ一ハ被告人ノナキ裁判ハ元ヨリナキ一ナレ氏裁判所ハ人民ニテ尊敬ヲ盡クサルヘカラス故ニ裁判所ノ當不當ヲ論スヘカラサルモノユヘ換事へ告ケ換事ニテソノ當否ニ付キ意見ヲ述フ即チ公益ト私益ナリ

此一ニ付キ下モ正條アリ故ニ贅セス

第八十三條 第四項

數箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中一箇

ノ裁判所ニ定ム可キ為メナシタル訴訟裁判
役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟裁判役相手方ノ親
族ナルニ付キ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントス
ル訴訟

原文ニテ言ハハ裁判官ノ規則ト書イテアリ
此譯文ハ直譯ニアラス意譯ナリ此ノ意ハ
裁判所ニツトモ我権内ニアラスト云ヒ又タ
ニツトモ我カ権内ナリト云ヒタルトキノ一ヲ
云フナリ

裁判所ノ規則ハ第百六十三條以下ニ之レ有
司法省

治安裁判所ニツニテ共ニ我カ権内又ハ我カ権
外ト云フトキハ縣裁判所ニテ之レヲ定ム縣
裁判所ニテ同様ナル時ハ控訴廳ニテ之レヲ
定ム控訴廳ニテ同様ナルトキハ覆審院
ニテ之レヲ定ム

縣裁判所ニツニテ争フトキハソノ管轄ノ控訴
廳ニテ之レヲ定ム

併シ巴里トホルドトノ如キハ
管轄違エハ能ハズ

控訴廳ノ争ヒノ時ハ他ノ控訴廳ニテ之ヲ
定ムル一能ハスフクトカワサレオンニテ定ムル

ヨリ外ナシ

タトハ、被告人巴里ノ裁判所ニ呼出サレタ
ルトキツノ被告人ニテ権内ニアラスト云フト
キハツノ裁判官ニテ直チニ此ノ裁判所ノ権
内ナリト裁判ス若シツノ時「ホルド」ノ裁判
所ニテモ同ミク我カ権内ナリト云フトキハ
権限ノ争ヒトナルソノ時ハツノ上ノ控訴廳皆
管轄違フ故ニ大審院ニテ定ム管轄外ノ
裁判所ニ於テ争フ時其縣邑ノ裁判所ヲ
論セス皆之レシ定ムルハ大審院ナリ

司法省

裁判役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟トハ我カ親
族ノモノ裁判官ナルトキノ「ナリ」原告モ被
告モ云フ「ナリ」親族ノ六級マテハ避クル「ナ
リ」
右ヲ避ル「ナリ」就テハ別ニ法アリ故ニ縷述
セス

裁判官相手方ノ云々ハ親族一人ナルトキハ
其裁判官ノ代ハルノ「ナリ」二人以上ノ親族アルト
キハツノ訴訟ヲ他ノ裁判所へ移スナリ

裁判所中ノ一局ニ二人ノ親族アルト云フニ

アラス一ノ裁判所中ニ二人アルトキノ一ヲ
云フナリ

若シ控訴裁判所第一局ニ出ツルニソノ局ニ親族
一人アリト云フ一ヲ訴フレハ他ノ裁判官ヲ
以テ代テシム

之レニ及シワノ一局ニハ親族一人アリ他ノ局ニ
二人アル時故障申立ツレハワノ控訴廳ニテ
訴訟ハ取上ケス

タトハハ巴里ニテ親族アルタノ 訴訟ノ出来
ヤルトキハソノ近傍三ヶ所ノ内最モ近キ控

司法省

訴廳へ移ス

故障申述フル時縣裁判所ニテハ親族二
人以上控訴廳ニテハ親族三人以上アレハ
其所ニテ訴訟ハ取上ケス

之ヲ願ヒ出ルニハ原被双方書付ヲ以テ其
訴事ヲ取扱フ間ハヨシ既ニ裁判所ニ出テ
争ヲ初ントスルトキニハ遅シ

右ノ場合ニ於テ原被告人共ニ裁判所へ出争
フマテ故障ヲ述へサルトキハ裁判スルトモ
ヨロシ又親族アルヲ知りテモソノ訴ヲナシ

ルトキハヨロシ

右ハ義務ニハアラス只法律ニ於テ夫レ文ケ
ノ自由ヲ与ヘタルモノナリ

使吏ノ云ニトハ同ミ様ナレトモ親族ノ為ニ
ニト書テアリ自カラ別アリ

裁判官ニ在ツテハ親族ノ為ニ私ニハナサ
ルモノト信スルナリ

使吏ハ人物モ劣リ其弊モ自カラアル故ニ
親族ノ為ニスル云ニト別段禁ミタルナリ
右ニ注意セサルヘカラサルナリ使吏原告人

司法省

ノ為ニ呼出状ヲ送達スルトキ被告人ニ
テ其親族ノ為メナリト云ハサレハワノ効ノ
ナキナリ掩テ仕舞フナリ 之レ効ナキ呼出
状ノ効アルモノニ
ナルヲ
云フ

右ノ事ハ第百七十三條ニ詳カナリ使吏ニテ
親族ノ為メニ送達シタルトキハ訴訟トナル前ニ
言ハサルヘカラス裁判官ニ親族アルトキハ裁
判所へ出テ言フ數セサル前マテハ申立テ若
シカラスワノ時間ハ呼出状ニ付テノ時間ヨリ
ハ甚タ長キモノナリ

使吏ノ親族ノ為メニナシタルトキハ其呼出
状ヲ送り直ス

裁判官ノ親族ナルニ付キ他へ移ストキハ訴
訟ヲ仕直ス一ナシ

ソノ訴訟ヲ他へ移ストキハ請取リタル文ケ
ノ書キ付ケテ他ノ裁判官へ引渡スナリクノ
請取リタル裁判官ハ八日内ニ何程ノ書類ヲ
リトモ盡ク閲セサルへカラス

右等ノ一モアルユへ佛ニテモ身方ニナルト
ナラサルトノ事ハ能ク防キテアルナリ

司法省

之レニモ換事ノ立入ル一ハソノ裁判所ニテ
請取リテモ心付カサル一ナリ裁判所ニテ人
ノ疑ヲ受テハナラサルユへ換事ニテ意見ヲ述
フル一ナリ

第八十三條 第五項

裁判後不正ノ裁判ヲ為シタルニ因リ其裁判
ヲ取消サントスル訴訟

此項ノ譯文ハ原書ノ意ヲ敷衍シテ書キタル
モノナリ原文ハソノ人ニ荷擔ニタル一トアリ

前項ノ意ハ裁判官ニテ過チヲナスヤノ疑
アルノミ此ノ項ニテハ既ニ過チヲナシタル
トナリ

此項ハ既ニ裁判ヲナシタル後ノトナリ
親族ヲ云フニアラス一般ノ係リ編頗ノ裁
判ヲナシタルニ付テノトナリ第五百五
條ニ詳カナリ其類惣テ四件アリ

○計畧ヲ用ユ ○書類ヲカクヌ
○賄賂ヲ取ル ○ソノ人ノ為メニ裁判スル
トヲ拒ム之レ等ヲ荷擔スルト云フトナリ

司法省

刑事ニハ此項ニアタルト多シ
重キヲ輕クスルト又ハ不吟味ノト等アル
ナリ

タトハ其荷擔スル裁判官一人ナルトキハ
ソノ裁判所へ訴フ二人以上ナルトキハ一等
上ノ裁判所へ訴フ

若治安裁判所ナレハ縣裁判所へ訴フ縣裁
判所ニテ二人以上ナレハ控訴廳へ訴フ

縣裁判所ニテ一人ナルトキハ只其裁判官ヲ
換ヘタルノミニテ訴ヲ聽ク

裁判所ニテハソノ荷擔ノ有無ヲ取調ヘ
孫荷擔ニ無相違トキハ其ノ裁判所ヨリ
書付ヲ渡ス其ノ書付ヲ以テ控訴廳へ
出し控訴廳ニテソノ當否ヲ判ス
若シソノモノニ於テ申立ノ實ナラサルトキ
ハソノ裁判ヲ受ケ更ニ三百フランクノ罰ヲ
受ク

右ハ控訴トシテ之レヲ取上ルニアラス元ノ
裁判ノ當否ヲ判スル為メナリ

控訴廳ニテ此事起レハ覆審院ニテ此事ヲ

司法省

ナス

以前ハ臨時裁判所へ出ス迄来ハ説キタル通
リナリ

區裁判所ニ訴ヘタルモノ不服ニテ府縣裁判
所へ上告シ終審トナリタルトキ此事アルモ
矢張り控訴廳へ持出スナリ

タトヘハ千五百フランク以下ノ裁判ヲ乞ヒ
終審トナルソノ時ニ縣裁判官ニ此事アリタ
ルトキハ即チ控訴廳へ出ス

縣裁判所ニ於テ終審ノ裁判ニ付キ裁判官ノ

偏頗アルト訴へタルトキソノ裁判所ニテ取調
殊ソノ事ノナリタルトキハ書付ヲ以テ殊アリ
トソノ訴人へ達スソエテ控訴廳へ出ツ控訴
廳ニテ取調へ方一ソノ裁判ノ宜シカラサ
ルトキハソノ事ヲ違ス

原被ノ内一方ノ疑心アルモノヨリソノ上ノ
裁判所へ出ス右ヲ換事ニテ聞カサルヲ得ス
即チ公益ト私益ト相関涉スルモノナレハナリ
ボアソノナード自カラ考フルニ終審ノ裁判
ナラハ控訴廳へ出ヅルコトハ前ニ説キタル通

司法省

リナリ始審ノ裁判ニ於テハ控訴スルノ道
及ヒ荷擔ヲ訴フルノ道モアリ何レヲ
先スヘキ哉法律上未ダソノ取極メ無
之

ソノ時ニハ控訴ノ出来ルコトナラハ控訴スル
方ヨロシ何トナレハ方一裁判官ノ荷擔
タルコトナキトキハ自カラハ罰ヲ受ケ裁判
官ニ對シテハ償金ヲ出し其上裁判ノ法ニ通
シタルトキハ何ノ役ニモタス

六月十五日

第八十三條

過日説キタル中ニ

非常ノ道ヲ以テ上告スルト通常ノ道ヲ以テ上告スルト相混スルトヲ説カシ

一併訴訟ニ上告ノ規則ナリ又故障申立テノ規則アリテ彼ト此トアルトキハ此方ヨリ訴フヘキナリ

タトヘハ故障申立ノ道ト上告ノ道トニツアルトキハ故障ヲ先キニシ上告ヲ後ニスルナ

司法省

リツノ中ニモ此レハ大審院へ訴フルト彼レハレケートトシヒルへ訴フルト區別アリ

過日説キタル裁判官ニテ荷擔ノ裁判ミタルニ付訴出ルトニ於テハ別段規則ナシ

今縣裁判所ニテ千五百フランク以上ノ始審ヲナスニ不服ナレハ上等ノ裁判所ニ控訴ヲナレテ裁判ヲ受ケ猶不服ナルトキハ大審院へ上告ス故ニ縣裁判官ニテ賄賂ヲ取リ荷擔ノ裁判ヲ為シタルトキハ控訴ノ道モアリ又大審院へ上告ノ道モアリ

ソノ時ハ先ツ控訴ノ道ヲ踏ミ登リ控訴廳へ
出ツ是レ通常ノ道ナリ

然ルニ控訴シタルモノノ勝チタリ因テ前ノ裁
判官ノ賄賂云々ノ一ハ消滅ス

右ニ及シ控訴ニテ負ケタリソノ時ハ賄賂ヲ
取りタリトモ前キノ裁判ヲ怨ム一能ハス
若シ其控訴ハ止メニシテ賄賂ヲ取りタル裁
判官ヲ相手取り其枉法ノ一ヲ訴フル時ハ是
レ非常ノ道ニテレケートシセルへ訴フノ時ハ
控訴スル一能ハス

司法省

縣裁判所ニテ枉法ノモノ一人ナレハ其人ヲ
相手取り二人以上ナレハ裁判所ヲ相手取り
控訴廳ノレケートシビルへ訴フソノ時ハ控
訴ノ道ハ断ユ

右ノ通り通常非常ノ両道アルトキハ必ラス
控訴ヲ先ニナスへも何トナレハ枉法ヲ訴へ
テ万一負ケルトキハ罰金ヲ出シ且裁判官へ
償金ヲ出ス一トナル甚タ危嶮ノ一ナリ
故ニ控訴ノ方ヲ先ニスルナリ

枉法アル場合ニ於テハタトへ其枉ラレタル

人ヨリ訴へストモ換事ノ耳目アリ裁判官ノ
罪ハ何レヨリカ發覺ミテ譴責トナルトナレ
ハ我ニ於テ遺恨ナカル可シ

タトハ縣裁判所ニテ終審ヲナシタル訴ヲ
控訴廳へ訴タルトキ裁判官ノ枉法アラハ大
審院へ上告ス

ソノ時取消ノ道ト枉法ヲ訴フルトノ兩道アリ
ソノトキハ必ラス取消ヲ前キニナスナリ
大審院へ訴へタルトキ大審院ニテソノ取消
ノ上告ハ立タ、スト申渡サレタルトキハ前

司法省

ノ控訴廳ノ裁判全ク善キモノトナル
故ニソノ時ハ手ヲ替へテ裁判官ノ枉法ヲ訴
フ是レ非常ノ道ナリ

大審院ニテ裁判ヲシタルトキハ縣裁判所ノ
裁判ハ消ユルナリ右ニ及シテ大審院ニテ取
揚ケルルトキハ縣裁判所ノ裁判ハ役ニ立ツ
ナリ

縣裁判所ヨリ控訴廳へ出ツルニ於テモ同前
ノトニテ大審ニテソノ上告ヲ取り揚ゲタル
トキハ控訴廳ノ裁判ニコハサレタルモノニハ

ナリ但シ訴訟ヲ下ケル一モアルニ付キ下ケルノ義モアルヘキナレ氏コハスノ字義ナリナリタールハ上ヘノ裁判所ト云フ義ナリ若シ欠席裁判ニ逢ヒタルトキ故障ヲ申立ル道ト在法ヲ訴フル道トニツアリ故障ノ方ハ間違ヒテモ後ノ災ヒナシ在法ヲ訴ヘテ万一誤リタルトキハ前ヘニ述タル通り大ナル禍アリ

第六項

夫ノ許諾ヲ得スシテ為シタル婦ノ訴訟又ハ夫
司法省

ノ許諾アリト虽氏其婦嫁資分括ノ契約ニテ婚姻ヲ結ヒタル時其婦ノ嫁資ニ管シタル訴訟幼者ノ訴訟其他原告又ハ被告ノ一方管財人ノ補佐ヲ受クル訴訟

能カナキモノニ付テ訴訟ノ起リタルトキハ換事ニテソノ人ノ為メニ防キ且保護セサルヘカラス

此項ニ付テ云フトキハ公益ノナキト云フモ可ナリ

併シ弱ヲ助ケルハ公益ナルニテ換事之ヲ助ケ

枉法ヲ訴フル一能ハス

大審院ニテ上告ヲ取揚ケサルトキハ縣裁判
所及ヒ控訴廳ノ裁判トモ役ニ立ツトハ固ト
大審院ハ裁判ヲコハス斗リニテ裁判ヲナス
所ロニアラス故ニ元トノ裁判ハ役ニ立テ居
ルナリ

若シ大審院ニテソノ上告ヲコハシタルトキ
ハ他ノ控訴廳へ移シテ裁判セシム

裁判官枉法ノ事ハ僅ニマル一ナリ方一之ア
ル時ト虫氏枉法ヲ訴フル危キ事ナルニ因リ

司法省

リテ必ラス先ツ上告ノ道ヨリ為スナリ

故ニ控訴上告シテ意ノ如ク勝チタルトキハ
ソレ切ニテ濟ムナリソノ時ハ裁判官枉法ノ
事ハ訴フル一ツ得ス

裁判官枉法ノ一ハ刑事ニ屬スル一ニテ必ス
檢事ヨリ告ルナリ

「^區カント^區」ハ始審ニテ「^縣アロ^縣」セスマンノ終審
トナリタルトキハ控訴ハ出来サルナリソノ
時ハ大審院へ上告スルナリ

カツサシオントハ裁判ヲコハス所ト云フ一

ル為メニ聞クナリ

○婚姻ヲナセシ婦 ○幼年ノ後見ヲ免カレサルモノ或ハ後見ヲ免カレタルモノ

○治産ヲ禁シ受ケ又精神ナキモノ

○風癲ニテ狂院ニ入ルモノ 治産ノ禁ハ受ケス

「フロジツク」ト云テ精神ノ弱キ浪費者右裁判所ヨリ管財人ヲ附ケ置クナリ

此五ツハ能力ナキモノナリ

婚姻ヲ為シタル婦ニテ夫ノ許シヲ受ケタルモノハ換事ニ告ケスト雖氏夫ニテ裁判所へ

司法省

出ツル一ヲ許サ、ルトキ婦ニテ訴訟ヲナストキハ必ラス換事ニテ聞ク

夫ノ許シヲ受ケタリトモ換事知ラサルヲ得サル一ツアリ

財産持寄りノ婚姻契約アル時ナリ共契約ニ

於テハソノ財産ノ利息ハ遺ヒテモ苦シカラ

スト虽氏元トノ財産ハ勝手ニ動カスト能ハ

ス右ニ付テノ訴訟ハ換事聞サルヲ得ス

幼年ハ後見ヲ免カル、トモ免カレサルトモ

親族會議ノ許シヲ受ケサレハ訴訟ヲナス

ヲ得ス

後見ヲ免カレタルモノハ契約ヲナスヲ得ル
ト雖氏訴訟ニ於テ許シナケレハ之ヲナス
ヲ得ス原書ニハ其他ノ字ヲ一般ニ作ル物テ
管財人ノ補佐ヲ受ケタルモノ、訴訟ハ換事
ニテ聞カサルヲ得サル文意ナリ

○治産ノ禁ヲ受ケタルモノ

○狂院ニ入ルモノ

○浪費者ブロシワク

此三ツハ律上ニ別段書セサルト虽モ管財人

司法省

ノ補佐ヲ受クト書テアルユヘ此中ニ籠リ居
ルナリ

婚セシ婦ハ弱質ノ為メニ民権ナシト云フニ
アラス嫁シテハ夫ニ従フノ道ヨリシテ能力
ナキモノト一般トス

其民権ハアリト雖氏夫ノ許シアラサレハ自
儘ニソノ権ヲ行フヲ得ス併シ夫ニテ拒
ムタルキハ裁判所ニテ助ケルニハ差支ハ無
之

第七項

失踪ノ思度ヲ受ケタル者ニ管シタル訴訟
又檢事ハ其他ノ訴訟ト雖モ已レノ干渉ス可キ
トモ必要ナリト思量スル時ハ其訴訟ノ報告ヲ得
ント求ム可シ又裁判所ヨリ其職務ヲ以テ換事
ニ訴訟ヲ報告ス可キノ言渡ヲ為ストモ得
可シ

佛ニテ失踪ト云フハ旅行中等ヲ云フニマラ
ス何レノ國ニ居ルヤ又ハ死生モ分明ナラサ
ルモノ之レヲ失踪ト云フナリ

失踪ニテ歳ヲ經ルニ從ッテ此人ハ死シタル
司法省

ニテモアルヘシト思フナリ

右ニ付テ期限アリ

五年マテハ失踪ト思度スル者ト云フ五年ヲ
過クレハ失踪者ト云フ決シテ死シタル證ナ
キニ死セリト云フトモ得ス

タトモ死セストモ財産ノ取扱アルニ付キソ
ノ處分ノ規則ヲ立ツルナリ

若シ人代理人ヲ置カスモテ他行シタル時失
踪ト思フトキハソノ財産ヲソノマ、ニ置ク
ト能ハス依テ其關係ノモノヨリ訴出レハ縣

裁判所ヨリ管財人ヲ立ツルナリ

失踪ト思フトキハ債主等ヨリ訴へ出ツレハ
裁判所ニテ取調へノ上失踪ト思度スル者ト
ナス

其失踪ノ思度ヲ受ケシ者

諸會計又ハ會社ノ分配又ハ相續ノ分配及ヒ
其惣會計會社ノ惣會計等ニ付テハ公證人ニ
テ立合代理ヲナスナリ

以上四ヶ條ノ一ニ付テハ目錄等ヲ作ラサルヘ
カラス

司法省

若シ住所ノ裁判官権外ノ地ニ不動産アルト
キハソノ裁判所ニテ行届カサルユヘソノ不
動産ノアル地ノ裁判所へ言送り代理人ヲ立
テソノ相當ノ處置ヲ頼ミ遣ハスナリ

失踪者自ラ代理ヲ置キタルトキハ十年間代
理ヲナサシメ裁判所ヨリ代理ヲ置キタルト
キハ五年間代理ヲナサシム

若シソノ代理惣代理ナルトキハ裁判所ヨリ
手ヲ付ケスモシ幾部分ノ代理ナルトキハ右
ヲ惣代理ニナストモ別人ヲ加へテ代理セシ

ムルトモ裁判所ニテ申付ルナリ

代理アルトキハ十年ノ後一ケ年ノ間穿鑿ヲ
ナシツノ一ケ年ノ後失踪ノ分レサルトキハ
失踪者ト言渡スナリ
代理ナキトキハ五ケ年ノ内未ノ一ケ年ヲ穿
鑿期限トシ合セテ五ケ年ヲ過クレハ失踪者
ト言渡スナリ

一ケ年ノ間穿鑿セヨト言渡ストキハ張出シヲ
ナス太政官日誌ヘモ載セ裁判所ノ新聞誌ニ
モ出ス右ニテ一向知レサルトキハ失踪者ト

司法省

ナス

此言渡しハ相續人債主其他関係ノモノヨリ
訴出ルニアラサレハ言渡スナリ

失踪ノ思度ト穿鑿トノ言渡しハ失踪者ノ子
孫又ハ其債主等ノ訴ニヨリ之レシ言渡ス
彌失踪者ト言渡ストキハ必ラス相續人ノ訴
ニ依ルナリ

初メ失踪ト思度スルニ付キ代理ヲ申立ルト
キハ必ラス換事ヨリ申立ルナリ公益ノ為メ
ナリ後キ失踪者ト言渡ストキハ換事立入

ラス

失踪者ト定マリタルトキハソノ弟姪等ニテ
相續人トナリテ假リニソノ相續ヲナス其
ハ彌失踪トナリタル日ヨリ假リニ相續シタ
ルト見做スナリソノ節ハ證人ヲ立ツ何トナ
レハソノモノ歸リ来ルトキハソノ財産ヲ返
サ、ルヲ得サレハナリソノ財産ヲ返ス期限
ハ失踪ノ言渡ヲ受ケタル日ヨリ三十年ニ至
ルナリ

代理アレハ前ノ十年ヲ合セテ四十一年代理
司法省

ナケレハ前五年ヲ合セテ三十五年ヲ過クハ
レソノ失踪者老人ニテ百歳ノトキニ至レハ
三十年ヲ待タス

三十年ヲ過クルカ又ハソノ失踪人ノ數ヲ計
算シテ百歳ニモ過クルトキハ假リノ相續人
真ノ相續ヲナシ度キ旨ヲ訴フソノ時ハ證
人モナキナリ

万一真ノ相續ヲナシタル後ニソノモノ歸リ
来ルトキハ相續人不平ナリトモ財産ヲ返サ
、ルヲ得ス

尤モ盡クハ返スニ及ハス費用シタルモノノ賣
リタルモノハ其マ、ニテ返^サス現存スル物件
ノミ其儘返スナリ
費用スル分ハ返スニ及ハスト云ヘトモ若シ
失踪者ノ不動産等賣リタル金ニテ買入レシ
物件及ヒソノ利益ホアレハ之ヲ返サ、ル
ヲ得ス

ソノ婦アルトキハ財産ノ約束ニヨリテウレ
ニ違ヒアリ雖^レ一々説明セント欲セハ婚姻
ノ契約ヲ盡ク説カサルヲ得ス故ニ暫テク置

司法省

失踪ノ一ニ付テノ立方ニ甚ク不條理ナル一
アリソノ婦タルモノ百年ヲ過クルトモ再婚
スル一能ハス

佛ニテ以前離婚ヲ許シタルトキト虽^レ失踪
ヲ以離婚ヲ為ス一ヲ許サス

今日ハ離婚ノ法ヲ廢シタルニ付キ驚クハ及
ハサレトモ人情ヨリ言ヘハ五ケ年ヲ過キタ
ラハ再婚ヲ許シテモ可ナルニ似タリ

失踪者ノ子アルハソノ養育ハ法律中ソレク
ノケ條アリテ世話ノ為ニ方アリ

第一ノ期限ノ時代代理ヲ付ケルトキハ換事即
キ原告人トナル

ソノ他ノ場合ニテハ換事ニテ原告人トハ十
ラスト雖此必ラス陪席テソレクノ保護ヲナ
ス何ノ為メニ陪席ニテ意見ヲ述フルト云フ
ニ孤獨無依モノト思フエハ保護セサルヘカ
ラス之レ換事ノ職掌ナリ義務ナリ五年ト起
算スルハ失踪者ノフノ地ヲ去リタル日ヨリ
起算ス

去リタル後二ケ年ヲ過キテ如シ失踪ト思フ
司法省

トキハ後三ケ年ニテ五ケ年トナル

代理ヲ置テ去リタルモノハ穿鑿中一ケ年ヲ
前ノ十ケ年ノ外ニ算シテ十一ケ年トナル代
理ヲ置カスシテ去リタルモノハ五ケ年中ニ
穿鑿ノ一ケ年モアルナリ

第八十三條第一項ヨリ第七項マテノ一ハ必
ス換事ニ通スヘキナリ万一換事ニ通セス
シテ裁判ヲナシタルトキハコレケートニビル
ト云フ非常ノ道ヲ以テ訴ヲ聽ク所へ出ツル
ナリ此ノレケートニビルハ何レノ裁判所ニ

モ之レアリ

萬一換事陪席ナク又ハ陪席シテ意見ヲ述ヘ
サル時裁判ヲナスニ能クナキモノ、勝チタ
ルトキ一方ノ能カアルモノニテ、レケートシ
ヒルハ出ワルヲ能ハス
能クナキモノ、負ケタルトキハ必ラスレケ
ートトシヒルハ出ワルナリ

既ニ述フル如ク本條ノ一項ヨリ七項マテハ
必ラス換事ニ通スヘシ其他ノ一ハ裁判官ニ
テ通セント思フトキハ之ヲ通シ換事ニテ聞

司法省

カント思フトキハ求メテ之ヲ聞ク裁判官
ト換事トノ適宜ナリ故ニソノ場合ニ於テ原
被告人トモ「レケートシヒル」ハ出ワルヲ得
ス

第八十四條

換事及ヒ其代役ノ共ニ失踪トナリ又ハ故障ア
ル時ハ裁判役中ノ一人又ハ其代役中ノ一人之
ニ代ル可シ

換事及ヒ其代役ノ共ニ失踪ト書キタルハ前
ニ説ク失踪ノ如キニハアラスワノ場ニ居テ

サルトキナリ故障ト同シ

旅行或ハ病氣等ノナリ

若シ換事及ヒ代役ノ居ラサルトキハ裁判官
ニテ之レニ代ルナリ此條別ニ説クナリ

司法省

六月二十日

第五章

吟味ノ事 吟味ノ公ケナル事

吟味取締ノ規則

第八十五條 原告被告ハ其代書師ノ助ヲ得テ自カラ辯論スルコトヲ得可シ然レ原告人ハ被告ノ心情ニ因リ又ハ其者事故ヲ經サルニ因リ相當ノ禮義ヲ以テ其趣意ヲ述フルコト能ハス又ハ裁判役ノ了知シ得可キ様ニ其意ヲ明白ニ述フルコト能ハサルヲ裁判所ニテ知リタル時ハ自カラ辯論スルヲ禁スルコトヲ得可シ

司法省

此條ハ代書師ノ助ケハ原告トモ必ラス頼

マサルヘカラス自カラツノ訴訟ヲ拒クコト能ハサルトキハ代言人ヲ頼ムヘキコトヲ云フ

相當ノ禮義トハ怒リニ堪兼テ罵詈スル等ヲ云フ無禮ト云フ字ナリ

心情トハ怒氣ヲ含ムコトナリ

事故ヲ經サルトハ場慣レサルコトナリ

自カラ辯論スルヲ禁スル上ニハ代言人ヲ頼マサルヲ得サルナリ

小サキ町ハサキト云フコトハ繁昌ナラノ裁判所ニ至リ

テハ代書人ニテ代言人ノ代リヲナス何トナ
レハ代言人ノ局トテハ別ニ無ケレハナリ
此所ニ一ツノ注意セサルヘカウサル被告人
自カラ拒クニヤラス原告人ニテモ自カラ拒
クテ勝手次第ナリ
カントシニ在ル治安裁判所ニテモ代言人ヲ
出シテ拒カシムルコト妨ケナシ
「アルロンキスマン」ニテモ小村ナレハ代書師ヲ代言
人トナストモ苦ミカラス

司法省

モノハ代言人ヲ出スモ苦ミカラス治安裁判
所ニ於テ自カラ拒クコトヲ得サルトキハ親族
朋友ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ル
刑事ニ於テハ親族朋友ニテモ可ナリ民
事ナレハ必ラス代書師代言人ニ限ルナリ
本條中文意ノ照應スル所口マリ心情ニヨリ
相當ノ禮義ヲ云々事故ヲ經サルニ因リ
其趣意ヲ述フルコト能ハス之レナリ

第八十六條 雙方共ニ相談ノ為メノミタリトモ
在職ノ裁判役換事長代言人長トハ換
事換事長副負ニ

ラ代言人ノ長ト檢事并ニ此等ノ副員ヲシテ綴令掛
云フニ非ラス
リ以外ノ裁判所ト虽氏口上又ハ書面ヲ以テ已レノ
訴訟ヲ助ケシムル一ツ任ス可カラス然レトモ此
等ノ官吏并ニ其副員ハ何レノ裁判所ニ於テモ
已レノ身ニ管シタル訴訟其ノ宗系ノ血屬又ハ姻屬
ノ親ニ管シタル訴訟其後見ヲ為ス幼者ニ管シタ
ル訴訟ヲ為シテ自ラ辯論スル一ツ得可シ

裁判所吟味中ニ書付ツ以テ旨意ヲ述フルニ
可ナリ之レヲ書付ケノ相談ト云フ之ハ双方
ニテ調印シテ出シテモ可ナリ法律家ノ調
印ニテモ可ナリ

司法省

此書付ケハ双方辯論ノ前ニテモ央ニテモ辯
論ノ後ニテモ可ナリ但裁判言渡ノ前ニア
ラサレハ能ハス

右ノ書付ケニテソノ訴訟ノ大畧ハ分明ニナ
ルナリ

此書付ケノ一ハ此章ノ大意ヲ撮ミテ説キ
シナリ

此條ニ在職ト書キタルハ右ニ及シタル裁判
官ノ右ノミアリテ非職ナルモノアレハナリ
休職中
タリトモ

在職
ナリ

在職ノ官吏ニ此トシ禁スルハ私ヲ防ク為
ナリ

裁判官ハ已レノ身ニ管ミタル訴訟以下
記載スル所ロノ訴訟ニ於テ辯論スルトテ
得ルト雖モ其ノ時ハ即チ訴訟人代理人
ナリ裁判官ニアラス

ソノ節ニ至リソノ裁判官自ラ裁判ヲナス
ト云フトキハソノ訴訟ハ故障ヲ述ヘテ他
ノ裁判所ヘ移ストテ得可シ如モソノ裁判

司法省

官ニテ此訴訟ハ已レ并ニ親族ノ訴訟ナル故
我ハ尙セスト云フトキハソノ原告人ニテ故障ヲ
述フルトテ得ス然レモ裁判官二人以上ト
ノ關係ノモノアルトキハ原被告ノ内一方ノ
願ニヨリ他ニ裁判ヲ移スナリ

第八十七條 雙方ノ辯論ハ別段法律ニテ陰
密ニ為ス可キトテ定メタル場合ノ外之ヲ公ケニ
為ス可シ○然レモ公ケニ辯論シ為ス時ハ甚シキ
耻辱又ハ不都合ヲ生ス可キニ於テハ陰密ニ辯
論ス可キトテ裁判所ヨリ言渡ストテ得可シ

然其言渡ヲ為サントスルニハ裁判役等評議ヲ為シ其評議ノ旨ヲ控訴院ノ檢事長ニ告知スヘシ又控訴院ニ為シタル訴訟ノ時ハ之ヲ裁判事務宰相ニ告知ス可シ

風俗ニ関スル一ナレハ陰密ニ為スナリ

此條ハ同事ヲ反復シテ言ヒタルモノナリ

陰密ニナスヘキ種類ヲ定メント欲スルハ難シ

善キ風俗ニ及スル一ハ惣テ此條ニ入ル

必ラス男女ノ一ノミアラス

然レ氏佛ニテ風俗ニ関スルト云ヘハ多クハ男

司法省

女犯姦等ニ在ルナリ

右ノ場合ニ於テハ原被告人并ニ代書師ホ

ハ一般ニ言渡シ傍聴人ハ惣テ追ヒ拂フ但シ

代言人ハ殘スナリ 年ノ若キ代言人ハ後學ノ為又ハ樂シノ為メ必テス殘ル

不都合トハ刑事ニ多ク關スル一ナリトハ

毒殺ノ事アルトキ衆人聞キ居ルトキハソノ

毒藥ヲ知リ得ル等ヨリ害ヲ醸スナリ

不都合トハ通語ヲ以テ書タルモノナリソノ

毒藥等ノ世間ニ弘マル等ヲ防ク為メナリ

事ニ依リ風俗ニ関スルヨリ不都合ノ一ニ

渉ル故ヲ以テ裁判官ニテ陰密ニナスイ
アリ

タトヘハ人マリ墮胎ヲナスイマリ手術藥
料等ヲ以テ之レヲ為ス此等ハ風俗ニ関ス
ルイナレトモ亦タ餘人ノソノ法方ニ倣フイテ
恐ル、ナリ重モニ不都合ニ係ルイ多シ
一體裁判ハ公クニ為サレハカラサルモノナリ
然ルヲ陰密ニナス之レ宴休ナリ故ニ之レヲ換
事長又ハ裁判事務宰相ニ告知スルナリ
裁判所ハ此訴訟ヲ為ストキハ換事ヨリ

司法省

換事長ニ告知スルナリ

第八十八條 吟味ノ席ニ出ツル者ハ皆帽ヲ脱
シ裁判所ヲ敬禮シテ静黙シ且總テ裁判所ノ
上席人ヨリ喧噪ヲ防テ可キ為メ言渡シタル
諸事ハ直ニ之レヲ細密ニ遵守ス可シ
裁判所以外ノ地ニテ裁判役又ハ換事ノ職
務ヲ行フ場所ニ於テモ亦此規則ヲ通シ用
フ可シ

細密トハ正シク遵守ス可シト言渡サレタル事
ツソノミニ守ル可シト云フマテノ意ナリ

帽ヲ脱スルノミニテモナラス敬禮ヲスルノミニテ
モナラス静黙ニスルナリソノ他偃卧又ハ是ヲ出
ス等ノキアレハ裁判官ニテ使吏ニ命シ追
出サシム使吏ハ今ハ止メタリ追フニ及フマニ
ト云フ一ヲ得ス直チニ命ヲ奉ス可シ
後項ノ一ハ時ニ裁判官ニテ損害又ハ死
傷等ヲ換スル為メニ出掛ケル一アリソノ時
ノ一ヲ言フソノ時モ同様敬禮ヲ盡ス可シ
第八十九條 原告被告ノ互ニ辯論スル時又
ハ裁判役及ヒ換察官ノ言詞ヲ述フル時又ハ

司法省

裁判所ノ上席人掛リ裁判役及ヒ換事問
糺譴責命令ヲ為ス時又ハ裁判役ノ言渡ツ
為ス時ニ當リ妄ニ言語ヲ發シ又ハ賞賛及ヒ誅
謗ヲ為シ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス喧噪スル者
使吏ノ譴責ヲ受ケ猶止メサル時ハ吟味ノ席ヲ
退ク可キ一ヲ命シ若シ其命ニ従ハサル時ハ之ヲ
捕ヘテ直チニ二十四時間裁判所附属ノ獄舎ニ
繋ク可シ但シ獄舎ニ於テハ吟味ノ調書ニ記
シタル裁判所上席人ノ命令書ヲ視タル上
其犯人ヲ受取ル可シ

来リ聽クモノタトヒ貴人ニテモ賞賛誹謗等
ヲナストキハ此條ニ言フ如ク裁判官ノ命ヲ待
タス使吏ヨリ譴責ヲナシ猶止メサレハ云ニス
ルナリ

調書ハ即席ニテ書クナリ

古ノ場合ニ於テハソノ裁判席ハ暫時止ム
ナリ

此時ハ何某ノ云ヒニ付何分時間吟味ヲ停止
セリト裁判所ノ記録ニ記ス

此ノ捕ヘラレタルモノハ姓名ヲ言フコトヲ好マサル

司法省

モノ多シソノ姓名ハ知レストモソレナリニ處分
スルナリ

時ニヨリ辯論中ニ一時ニ惣人ノ喧噪ヲ起ス
イマリソノ時ハ惣テ追ヒ出スナリ暫時ニヒテ
又門ヲ開キ吟味ヲナスソノ時ハ使吏ニテ前キ
ニ喧噪ヲナシタルモノハ入レサル様ニナシ新タニ
来ルモノハミヲ入ルナリ

第九十條 若シ裁判所ニテ職務ヲ行フ者
其喧噪ヲ為シタル時ハ前條ニ記シタル罰ノ外定
期ノ時間其職ヲ停メラル可シ但シ初犯ニ付テ

ハ其定期三月ニ過ク可カラス。其言渡ハ前條ノ
場合ニ等シク假ニ之ヲ執行フ可シ

職務ヲ行フ者トハ 書記 使吏 代書師

代言人 番兵等ヲ云フ裁判官ハ此中ニ入ラス
此定期ハ期限ノ一ナリ初犯三ヶ月ニ過ク
可カラス再犯以上ハ裁判官ノ見込ニ次第
ナリ

通常控訴ノ出来ルモノニテ裁判ニ服セス
控訴スルトキハソノ控訴期限マテハ裁判
執行ヲ駐止シテ置クナリ然レモ此ノ事ハ假

司法省

リニ先ツ之レヲ執行フナリ

元ヨリ終審ノ裁判ナレハ此論アルナリ金
額ノ定マラサルモノハ惣テ控訴ヲナスナラ
得ルナリ

第九十一條 裁判役又ハ其他裁判所ノ官吏
ニ其職務ヲ行フニ當リ之ニ不敬ヲ加ヘ又ハ劫迫シ
タル者ハ裁判所ノ上席人及ヒ掛リ裁判役又
ハ検事ノ命ニテ之ヲ捕ヘ直チニ裁判所附屬
ノ獄舎ニ繋キテ二十四時間ニ吟味ヲ為シ裁判
所ニテ其罪犯ヲ證スル調書ヲ視タル上一月ニ

過キサル時間之ヲ禁錮ノ刑ニ處シ且二十五「フ」ラ
ンク「レ」ヨリ少カラス三百「フ」ランク「レ」ヨリ多カラサル罰
金ヲ言渡ス可シ

若シ其犯人ヲ直チニ捕フル「ト」能ハサル時ハ裁判
所ヨリ二十四時間ニ其者ニ付キ前ニ記シタル罰
ヲ言渡ス可シ但シ其者十日内ニ自カラ出訴シ
テ獄舎ニ入ル時ハ其罰ノ言渡シニ付キ故障述
フル「ト」得可シ

後項其犯人ヲ直チニ捕フル「ト」能ハサル時ノ言
渡書ハツノモノ、住所ノ知レタルトキハツノ住所

司法省

ハ送達スモシツノモノ、住所ノ知レサルトキハ
裁判所ノ門扉ニ張り出スナリ

十日内ニ自カラ出訴シテ獄舎ニ入ル時ハ故障ヲ
述フル「ト」得ルハ代人ニテハ能ハス必ラスツノモノ
自カラ来リテ入獄スルトキナリ

第九十二條 若シ其罪施體又ハ加辱ノ刑ニ處
ス可キモノタル時ハ其犯人ヲ捕ヘテ刑法裁判所
ニ送リ治罪法ニ定メタル規則ニ循ヒ其罪ヲ訴
ヘ之ヲ罰ス可シ

縣裁判所ノ權外ニアル罪人ノ處分ヲ云フ

其譯ニハ刑法裁判所ト書イテアレトモ原
書ニハ權内ノ裁判所ト書イテアリ

然ルトキハ左ノ三ヶ所ノ裁判所ノ内ニテ之レ
ヲ裁判スルナリ

罪ヲ犯ス所ロ一ツ捕ハレタル所ロ一ツ住所又ハ
住居一ツ惣テ三ツナリ

此三ツハ權内ノ裁判所ナリ

第六章 裁判役ノ評議及ヒ書面ニ因
テ吟味ヲ為ス事

此六章餘リ入用無之且此所ニテ説クヨリ裁

司法省

判言渡ノ所ロニテ説ク可シ

第七章 裁判言渡ノ事

第百十六條 裁判ハ裁判役中可トスル者ノ
数多キニ從ヒ即時ニ之ヲ為ス可シ然レ裁判役ハ
言渡ヲ為ス前ニ其會議ノ室ニ退キラ評議
ヲ為シ又ハ後ノ吟味ノ日迄裁判ノ言渡ヲ延ハ
スナラ得可シ

通例訴訟難事ニ非サレハ原被告人相答
辯ニ換事ソノ意見ヲ述ヘ然ル後裁判官
裁判ヲ言渡ス之レ手順ナリ

ソノ間ニ故障ノ起ルトキハケ様ニト云フ條ニ
ノ裁判言渡ノ章ノ後ニ出ツルハ錯簡ト云
フヘシ何トナレハ裁判言渡ノ後ニ故障等
ノアルトナシ

裁判言渡

裁判言渡ト云フイヲ説カントス

此語ハ如何様ナルイノ起ルトモソノ争ヲ決定
セリト云フ字ナリ

裁判官ニテ裁判言渡ス前マテハソノ理非曲
直ヲ考ヘルモ可ナリト虽氏一旦言渡シタルハ

司法省

聊カ疑念アルヘカラス又何人ヲ論セスソノ裁
判ヲ可否スルコト能ハサルモノトス之レ規則ナリ
此章錯簡マリ故ニ其順序ヲ立テ、説カ
ントス

裁判ヲ決定スルニ三ヶ条アリ

第百十六十七十八ノ三ヶ條之レナリ

裁判官裁判ノイコ付テ評議ヲ為シ決定
スソノ決定ノミニテハ裁判トハ云ハスタトヒ
陰密ニナシタル吟味ナリトモ言渡ハ公然ト
ナス故ニ言渡ヌマテハ裁判トハ云ハス

裁判ヲ言渡シタル上ハ之レヲ書付ニ作ラサル
可カラス之レハ書記ニテ為スソノ書付ケハ負
ケタルモノハ送達セサル可カラス此作り方ハ大
キニ面倒ナル手数敷ナリ

第百三十八條ヨリ第百四十八條マテ之レ
ナリ第百十九條ヨリ第百三十七條マテハ裁
判言渡ニ關係シタル小節目ヲ舉ゲタルモ
ノニテ種々ノナニ係ル之レハ皆ナ必要ナルモ
ノナリ

第百十七條 裁判役中其說ノ二箇以上ニ分
司法省

ル、時ハ最モ寡數ノ說ノ裁判役多數ノ說ノ裁
判役中ノ一方ニ合同ス可シ然レ總數ノ說ヲ
再ニ算ヘブル後ニ非レハ必シモ合同スルニ及ハス
第一ニ裁判言渡ノ一ヲ言ハシ

原告被告トモ各ソノ意ヲ述ヘ了レハ推事
意見ヲ述フ事ニヨリ述ヘサル一モアリ右了
レハ裁判官ニテ此事件ハ承リタリト云フ
右ノ手順濟メハ此事件ノ評議ヲナシ
ソノ說ノ多キ數ニ決スソノ多キトハ半數ヨリ
一人多キヲ云フ三人ナレハ二人五人ナレハ三人

ノ如キナリ

佛ニテハ裁判官少ナクトモ三人以上ナリ
成リ大キ奇數ニナス六人四人等ノ偶數ニ
ハセス之レハ説ヲ分カツ時ノ為メナリ

タトヘハ四人ノ裁判官アリテ二人ツ、分カレタ
ルトキハ必ラス上席人ノアル方ノ勝ツニマラス
裁判官三人ニテ三人トモ違ヒ四人アリテ二人
ツ、トナルトキハ其説分カルトナス

ソノ時ニハ猶外ノ裁判官ヲ呼ヒテ再ヒ吟
味ヲ仕直ス

司法省

三人ノトキハ二人ヲ加ヘ五人トナシ四人ノトキハ
一人ヲ加ヘ五人トナス

如シ小村ノ裁判所ニテ外ヨリ呼フ裁判官
モナキトキハ代言人ヲ席順ニ取リテ之レ
ヲ加フ

如シ代言人モナキ所口ナレハ代書人ヲ以テ之
レニ加フ

五人ノ裁判官二人ツ、合セ一人離レ三ツト
ナリタルトキハ亦仕方違フナリ

ソノ時ハ裁判上席人ニテ猶一應考フヘト

云フ暫時ニミテ又ソノ説ヲ聞ケハソノ離レ
タル一人ハ一方ヘ附ク一アリ

或ハ二人ノモノガ一方ヘ附ク一モアリ
イツレ三人ニサヘナレハソレニテ宜シ

前ノ場合ニ於テ上席人ニテ考ヘヨト云フ再
考ノ後其説分レ別ニ考ノナキトキハ離レ
タル一人ノモノニ何レナリトモ一方ヘ附クヘミト
云フナリ

是レハ少モク押付ケルヨフナレトモ夫ニテ決定
スルナリ

司法省

五人ノトキハ必ラス前ノ如クナスト定マリタル
ニモアラス聞直ス一モアリ

五人ニテ四ツニ説ノ分カル、一アリソノ時ハ一方
ヘ附クヘミト言フ一能ハス前キノ一人留レタル
トキハ一方ヲ擇ム一ヲ得ルト雖モ之レハ擇
ム一ヲ得サレハナリ

ソノ時ハ一人ヲ加ヘテ六人トナス六人以上ニ
加フル一ヲ得ス何トナレハ縣裁判所ハ七
人以上ノ裁判官ヲ置ク一能ハサレハナリ

此百十七條ハ前ニ言フ五人ノ説ノ三ツニ分

カレタルトキ再ヒ考ヘヨト云フトキノ一ナリ
五人ニテ四ツニ分カレタルトキハ一方ハ附ク可シ
ト云フ一ヲ得サルナリ之レ説ノ分カレタルモノ
ナリ

再ヒ算ヘタル云々原語二度メノ説ヲ聞キ入
レタルト云フ意ナリ一人一人ノ説ヲ聞ク一
ナリ

原文ノ直譯

然リト雖凡ソノ合同スルモノ、聲カ再ヒ
插マレタル後ニアラサレハ合同スルニ及ハ

司法省

ス

第百十八條 可トスル者ノ數ト非トスル者ノ數
ト均シキ時ハ別ニ裁判役一員ヲ呼ビ別ニ裁判
役アラサル時ハ裁判役ノ代員ヲ呼ビ又裁判役
ノ代員アラサル時ハ其裁判所附属ノ代官人
一員ヲ呼ビ代官人アラサル時ハ代書師一員ノ呼
ビ再ヒ吟味ヲ為ス可シ但シ此等ノ者ハ其任ヲ
受ケタル順序ニ從ヒ之ヲ呼ブ可シ
之レハ順序シユヒナリ成ル文ケ上等ノ者
ヨリ順ニ呼ブナリ

再々吟味ヲ為スハ訴訟ヲ聽直ス一ナリ
我々同役ナリトテ必ラス我カ説ヲ在クル一
ハナシ

司法省

六月二十日

裁判言渡ノ結局ハ裁判官ノ説多キ方ヲ取ル
トハ過日説キタリ

裁判官四人ノ中ハ三人五人ノトキモ三人六
人ノトキハ四人ニアラサレハ半数ヨリ多キ
トハ云ヒ難シ

説ノ分カレタルトキハ外ヨリ裁判官ヲ呼ビ
或ハ代書師代言人ヲモ呼フナリ

説ノ三説ニ分カレタルトキハ權威ニテ押付
ヨフナレトモ一人ハ強テ一方へ付カザルへ

司法省

カラサルトモ説キタリ

若モソノ訴訟ノ難件ナラサルトキハ裁判席
上ニテ後口ヲ向クカ又ハ單紙へ書キ付タル
等ニテ相談ヲナシテ決ス

若シ難件ニテ席上決シ難キトキハ評議席へ
退ラ之ヲ議決ス

猶難件ナレハ此次ノ開聽マテ延ハストモア
リ時ニヨリテハ翌日言渡ストモアレモ多分
ハ八日目ニ言渡シヲナスナリ

更ニ難件ナレハ裁判官中ノ一人ヲ撰ミ

ソノ眼目タル件々ヲ掲ケテ啓告セシ
ムル一アリソノ時ハ八日目又ハ十五日目
ニ言渡ス一ナリ

猶更難件ニテ會計事件ニ関スル等ノト
キハ或ハ算當ヲナシ或ハ表ヲ作り終ニ
原被告ヨリ書付ケテ出サシムル一アリ
之レヲ書付ケテ吟味ト云フ必ラス三十
日位ハカ、ルナリ

裁判席ニテ直ニ言渡シテナサスシテ翌日
八日十五日啓告又ハ書付吟味等ノ節ハ

司法省

評議ニ付延列ト云フ啓告ヲナサスシテ延
列スルトキハ單ナル評議ソノ次ハ啓告
評議ソノ次ハ啓告并ニ書付吟味ノ評議
ト三ツニ分ケテアルナリ

過日第六章ハ説カスニ置キタリ

此第六章今ハ必用ニハアラス只書付ケ吟
味ノ一ニ及ヒタルユヘ一應話シタリ

今日右ヲ説キタテハ訴訟法ノ甚タ愚ナル
シ以テ諸君ノ一笑トナラシ

第四ノ一ハ第九十三條ニアリ

第五ノ一ハ第九十五條ニアリ

ソノ餘ノ條期限等ノ事ニテ原告人十五日
被告人ハ十五日ト言フ類ナリ

併書付吟味ヲナス等ハ甚タ稀ナルナリ

過日説キタル通り言渡サレ間ハ裁判トハ
言ハス故ニ未ダ言渡サレ間ハ裁判官ニ
テ説ヲ換ルモ可ナリ

以下條ヲ追テ説カシカ又ハ事ノ順序ヲ
以テ説カシカ

司法省

イツレニテモヨシ

然ラハ順序ヲ以テ説カシトス第百三十八條
ニ移ル

第百三十八條ニ裁判所ノ上席人及ヒ書記官ハ
言渡アル毎ニ直ニ其言渡書ノ正本ヲ記シ
テ姓名ヲ手署ス可シ又其言渡書ヲ記シタル
聴訟ノ簿冊ノ端ニ其裁判言渡ニ出席シタル
裁判役及ヒ換事ノ姓名ヲ附記シ之ヲ附記シ
タル部分ニモ亦上席人及ヒ書記官其姓名ヲ
手署ス可シ

裁判ヲ言渡スルハソノ裁判ニ關係シタル裁判官ハ必ラスソノ席ニ出ツヘシタトハ外
事ヲ聴キ居ルトモ必ラス同席ス

巴里ニテハ裁判官ハ甚タ多し一周間ニ三度
裁判席ニ出ツソノ他ノ日ハ他ノ評議等ニ付
キ出席セス

一周間ニ三度ト云ヘハ甚タ閑ナル様ナレト
モソノ間不絶取調モノアリ閑ニアラス

檢事モ言渡ニハ必ラス陪席ス其ノ義務ヲ以
テ意見ヲ述フルイマリ又裁判官ノ求メニヨリ

司法省

意見ヲ述フルイマリソノ意見ヲ述ヘタル檢
事ニテ陪席ス

換事ハ評議席ニ關係セサルナリ

此條ノ通りニテ言渡シタル上ハ決シテ過誤ナ
リナト云フイ能ハス原被告トモ亦タ彼是云
フイ能ハス尤モ控訴上告等ノ道ハアルヘシ
右ノ濟ミタル上ハ裁判所ノ簿冊ヘソノ上席人
ト書記官ハ調印ヲナスナリ

右簿冊ノ第一紙ハ裁判官換事并ニ上席人書
記トモ殘テス姓名ヲ記ス

右 upper 席人書記ニテ簿冊ニ調印スルハ義務ナ
リソノ調印セサル前ニ書記ニテソノ寫ヲ相
手方へ與へタルトキハ偽リノ裁判ナリト云
ヒテ訴フル一ヲ得ル

言渡ニハ口ニテナスニハ消へルナリ依テ右言渡
書ヲ作り永世不朽變セサルヲ表ス

ソノ upper 席人ノ調印スルハ大切ナル證據ナリ
若シ急ツテ調印セサル一ナカテシメン為メ
毎月換事ニテ之レヲ換閱ス

万一調印ヲナサル一アルトキハ換事ニテ書

司法省

付ヲ以テ其筋へ訴フソノ時ハ書記ハ職ヲ停
メテレ upper 席人ハ司法卿ノ謹責ヲ受ク

裁判言渡ノミニテハ裁判ノ執行ニハナラス
其言渡書ノ副本ヲ以テ執行其副本ヲゴ
ロスト云フゴロスハ大ナルト云フ一ニテ大書
スルヨリ此名ヲ付ケタリ

ゴロスト云フ副本ヲ使吏ヲ以テ相手方ニ
送達ス其送達ノ上又ハ後日執行書ヲ
送りタル上ニアラサレハ執行スル一ヲ得

ス

言渡ノミニテ書付ナケレハ負ケタルモノハ執行
ノトヲ告ル一能ハス故ニ此コロスヲ用エ
之レヲ裁判言渡第一ノ書付ト云フ
此寫ハ元ヨリ裁判言渡簿冊原書ノマ、ニ
書イテアルナリ

裁判言渡書ハケ條ト道理トニ夕通り書イ
テアルナリ

佛ニテ一千七百九十年ノ改革以前ハ裁判
言渡ハ道理ヲ付タル一ハナサレシ然ルニ
ソノ後ハソノ道理ヲ云ハサレハ權外ノ一トシ

司法省

為シタルトナル故ヲ以テ必ラス何ノ道理ヲ
以テ何レ申付ト云ナリ
道理ニハ事柄ノ道理ト法律ノ道理トノ二ツ
ヲ言渡ス

タトハ暴行ノ為メニ契約ヲナシタル訴ナレハ
ソノ事柄ヲ吟味シタル上ソノ暴行ニ依テ契
約ヲナシタルエハ右ノ契約ハ廢棄スルト言
渡ス等又ハ賣買ナレハ何物件ヲ何月何日
ニ引渡スヘキ所口引渡サレニ付キ云々等
右ノ道理ニヨツテ何法律ノ何條ニ依テ何レ

ヲ言渡スト云フ一ナリ

詭欺ニヨリテ錯誤シ買フタル物件ヲ更ニ
轉買シタル物主ヲ争フニ付テ議論アリ
タリ右等ノ如キ法律ニ正條ナキ議論マ
ラモ云ハサルヲ得サルナリ故ニ時ニヨリ法律
議論甚長ク書イテ言渡ス一アリ

時ニヨリテ三葉モアル言渡書マリ之レハ法律
ヲ論シ詰メタル事柄ヲ盡ク書キ續クルユヘ
ナリ一部ノ書ノ出来タルト思フ位ナリ
時ニヨリ事柄甚タ長クナル一アリ事柄ニヨリ

司法省

法律ニ寄セテ代言人等ノ言フ一アルトキハ
裁判官ニテ法律上ヨリ論スルナリ縣裁判所
ニハ何ニ係テト云フ

控訴廳ニテハ何ニ考ヘルト云フ右ハ古キ集
リナリ縣裁判所ニテハ何ニ考ヘルト云フ
一ヲ得ス

時ニヨリ法律何ノ條ニヨリ何ニ言渡トハカ
リニフハ平坦ナル文ナリ

タトハ不動産取戻シノ一ニ付テハ此事柄
何ノ事柄ニテ何ノ道理アリ何ノ條ニ

依リ不動産ヲ戻シ并ニ作徳トモ取戻スヘシ
ト云ヒ渡ス

時ニヨリ不正ノ心ニテ占有シタル場合ニ於テハ
ソノ不動産ヲ取戻シ并ニ何年以來ノ作
徳マテモ取戻スヘシト言渡ス

プレスクレスレシヨシノ期限過キタル訴訟ヲ訴
ヘ出テタルトキハソノ期限ノ過キタルトテ言
出サハルエハソノ願ハ立タスト言渡ストアリ
金ヲ借リタル事件ニ付テハソノ元金ニ利分ヲ
添ヘテ返スヘシト言渡ストアリ

司法省

此法律ニ事柄ト道理トハ書イテアレトモ如何
ナルヲ事柄ト云ヒ如何ナルトテ道理ト云フ
ハ書イテ無之

別段ナル事柄ニ付キケ條文ケニテ言渡ス事
法律中ニ有之通例ノ一ハ書イテ無之

タレハ極貧ノ負訴人アルトキハ裁判所ヨリ
期限ヲ延ヘルトアリ右等ハ何事モ書カサル
ナリ第百二十四條ヨリ第百二十七條マテナ
リ第百二十六條第百二十七條第百二十八條
ハ拘留ノ一ノ存モアルトキノ一ナリ右等ハ言

渡ノ書キ方アリ

第百二十八條ハ損失ノ償ノ一ヲ云フ

第百三十條ハ費用ノ一ニ付テ罰スル一ヲ云フ

第百三十五條ヨリ第百三十七條マテハ假リ裁

判ヲ執行スル手次ヲ云フ

右ニ未ダ説カス説キカ、リタル分ノ濟ミタル

上ニ説クヘシ

裁判言渡ニ道理ヲ付クルト道理ヲ付ケサル

ノニタ通りヲ説キタリ

道理トケ條ハカリニテ不分明ナル工へ訴訟ノ

司法省

顛末ヲ残ラズ書キ續クヘシ

ソノ上ニカリテ一ヲ加ヘサルヘカラスソノ訴訟

役目ト云フ意ナリ

タトハ、劇場ニテ誰カ何役ヲナシタルト云

フ如シ

役目ト云フハ原告被告ノ事ナリ原告人ハソノ

身元ヲ委シク書ク誰レノ為メニ為シタル訴訟ヲ

書ク妻ノ為メトカ弟ノ為メトカ委シク書ク

被告人モ同様ナリ尤モ住所職業ヲモ書ク

相手方ノ頼ヒタル一ヲ辨論シタル一ヲモ書ク

ヲ改メテモテフアリ

事ニヨリ裁判席ニテ願ハスニ置テ言渡書ハ願
ハサル一ツロ也サシムル一アリ

右ノ通り願ヒタル一ヲ削リ願ハサル一ヲ足ス
等ニ於テハレケートシビルヘ取消ヲ願フ一ア
リ之レハ甚不都合ナル一ナリ

裁判言渡モタル後ニ或ハ足ニ或ハ削ル一ナトハ
輒スク出来ルモノナリ

身元ノ一ヲ相手方ニ列合フニ身元ノ違フト
キ心書記ヘツノ一ヲ申シ裁判上席人ヘ我カ

司法省

身元ハケ様ニ付ケ様ニ付ケテ下タサレト云
フ一アリ

第百四十二條ヨリ第百四十五條マテハ今違テ
説キタルケ條ナリ

佛ニテ裁判言渡シノ濟ミタル後原被告ヨリ
書記官ヘツノ寫ヲ乞フトキタトハ三ツノ一ヲ

願ヒタルヲ一事ヲ削リ二事ニナシテモナフ一
アリ又二事ヲ願ヒタルヲ三事ニナシテモナ
フ一アリ之レハ言渡ハ口上ニテ言渡シ書記ニテ
書付ヲ作ルユヘ右等ノ一ナリ右ハ原被告ニテ

裁判所ニ於テ事柄ト道理ヲ云フハ勿論ナレ
トモ原告被告ヨリモソノ事柄ト道理トヲ簡
畧ニ言ハサルヲ得サルナリ
ソノ事ハ

第百四十一條ヲ讀ムヘシ

代書師ノ姓名ハ必ラス書クヘシ

何某ノ代書師ニ何某カ為リ何ミシ申立タリ
何某ノ代書師ハ何ト弁ミタリヨモ書ク

裁判言渡書ノミニテハ不足ナリソノ上ニ原被
告ノ身元書ヲ出シ使吏ヲ以テ一方ノモノ

司法省

ヘ送達シソノ身元ヲ取調ヘルイアリ若シ
一方ノ者ニテ難應コトアルトキハ其返書
ヲ送ルハ二十四時間ニ為スナリ

ソノ身元ヲ慥カニセサルヘカラサルハ相續人
等ニダトヘハ

親ノ所有金文ケノ相續人アリ又ハ通例ノ相
續人アリ故ニソノ身元ヲ取調ヘサルヘカラサ
ルナリ

タトヘハ三事ヲ願ヒタルニソノ内一ト事ヲ削
リ不都合アルトキハ別段願ヒテソノ言渡書

詭欺ニテナス一モアリ又ハ錯誤ニテナス一モアリ
書記ニ於テハ申立ヲ書クモノニテ權ノチキモノユ
ハ佛國ニテハ右等ノ間違ヒヲ生スル弊タルナ
リ

裁判言渡ヲ説カン

裁判言渡ハ原被告人ヨリ申立タル一ニ從ツ
テ言渡スモノナリ

ソノ申立ニ依テ黑白ヲ付クルハ裁判官ノ職ナリ
言渡ハ口上ニテ事柄ト道理ヲツヅリケ保シト言
渡スノモ原被ノ申立タル一ハ言ハスツノ時原

司法省

告ヨリ出モタル書付ケハ一旦下ケルナリツノ後書
付ニナストキハ原被告ノ申立タル一ヲ盡ク書
クナリ

右ノ通り後ニ書付ケヲ作ルエハ原被ヨリ三事ヲ
一事ニ申立ルトモ書記ニテ辨別付カス故ニ間
違トナルナリ

タトハハ貸金ニ付元利等ニニタ事ヲ願ヒタル
ニ後ニ言渡書ヲ書クトキ利金ノ方ヲ削ツテ元
金ノミノ一ト事トナストキハ一方ヨリ願ヒ非常ノ
道ヲ以テ取消シ願フ一也来ルナリ

一ト事ヲ願ヒタルニニ夕事ヲ書ク一アリ之レモ前
ノ手次ヲ以テ直ス一出来ルナリ

此事ハ餘程不思議ノ一ナリ惡キ事ハ後ニ言
ハシ原告人ノ一ヲ違ヒタルトモ被告人ノ一
ヲ違タルモ一方ヨリ直スヲ願フハ同シ一ナリ
裁判席ニテ原被ニテ申立ヲナスニ神ニ誓ヒテ
後申立ツルヤ

誓ヲナス一ナシ

英ニハ誓アリ佛ニテハナキヤ

佛ニテハナシ英ニテハ曰習ニヨリテアル一モアリ

司法省

申立ヲ書記カ書キ取ルヤ

書キ取ル一ナシ

裁判官ニテ原被ノ申立ヲ以テソノ理非ヲ并別
シテ裁判ヲナスニ後ニ至リ原被ニテ左様ノ一ハ
言ハスト言タラハ如何スルヤ

代書師ニテ見込ニテ付ケルマテニテ裁判序ニ
テ原被ニテ何事ヲ云フトモ聊カ右ニ関係ス
ル一ナシ

民事ノ訴訟ニ於テ本人ノ出席スル一ハ絶テ無
之双方ノ代書師ニテ同答スルノ一稀シニ本人

ヲ呼ヒ出ス一アリソノ時ハソノ口上ヲ書クナリ
代書師ハ見込ミヲ付ケルマテニテ代言人ノ論
辯スルナリソノ代言人ニテ不足ト思フトキハ
裁判官ノ見込ニヨリ本人ヲ呼出ス一アリソノ
時ハソノ申立ヲ書クナリ

代書師ニテソノ訴訟ノ次第ヲ書綴リタル上
裁判官へ出ス書付ケノ残ルモノハ此書付ケノ
ミナリ代言人ナシニ本人ノ出席スルモソノ口
上ハ書付ニシテ残サス裁判官ノ見込ヲ以テ別段
ニ呼ヒ出ス時ハソノ口上ヲ書キ留メニナシ残ル

司法省

ナリ

代書師ニテ見込ヲ立タルニ付代言人ニテ之レヲ辯
論シタル後裁判言渡トナリタルトキ代言人ニテ
左様ナリト云ヒマセスト云ヒタルトキ如何スルヤ
代言人ノ言ヒタル一ニ付キ裁判官ニテヲマイ此
事ヲ言ヒタルヤト問フ一ハ絶テナシ故ニ代言人モ
私ハ言ヒマセマトハ言ハサルナリ
代言人ハ言ヒサヘスレハ夫レマテナリ間違ヒノ
出ルハ代書師ニアリ

元ヨリ代言人ノ言フ一ハソノ時ニテ消ユルナリ

ハ書類ニテ濟ムヘシ代理人ヲ用ユルハ何ノ為ソ
ソヤ

何月何日ノ期限ヲ過キタルニ付キ云々ニ付キ
返弁ヲ責ムル等惣テ書面ニテ分明ナレ氏書面
ニテハ充分セサルユヘソノ書面ヲ辨キ明カニ
為メニ代理人ヲ用ユルナリ

尙違ヲ書キ替ルナハナキモノナレ氏時々ヨリア
ルナリト説カント欲スレトモ時間既ニ過キタリ
後日ニ説クヘシ

言渡書ノ寫ヲ乞ヒニ出ツル人ハ誰レナルヤ

司法省

代書師ナリ本人ハ決モテ出ス右ニ付キ代書師
ニテ失錯又ハ故造ニテ間違ヒノ出ルナリ

七年七月五日

裁判シ言渡ス片ハ必ラス訴訟シ為スモノ
即チ代書師ヨリ概畧ノ見込書ヲ出ス

ソノ双方ノ代書師見込書ノ大意ニヨリ裁判
シ言渡ス必ラス道理ト事柄トノ譯ヲ言フ

裁判言渡ス必ラス事柄ヲ讀ム代書師見込
書ヲモ讀ム

右ニ付ケ様ニニナルニ付キ何ノ道理ヲ以テ何
ニ言渡スト云フナリ

何ノ某ト何ノ某カ訟ヲナシタルトワノ姓名ヲ

司法省

言フソノ姓名ヲ言ハサレハソノ事柄ハカリ
シ言ヒテモ着落セサルナリ

併シソノ身元、後見人ナリヤ又ハ何ナリヤ
ハ言ハス

其「カリテ」ハ後ニ記入スルナリ

言渡ノ後書付ケヲ作ル時ニ加ヘサルヲ得サ
ル「ハ」ソノ訴訟ノ顛末并ニ訴訟ノ「」ニ付
キ不意ニ起ル「」シモ職業位所「」モソノ事
柄ノ道理法律ノ道理シズ書キ加ヘサルハ
カテス

代書師ノ見込書ハ原被雙方互ニ送達シタル
モノナレハ双方共何レモ同様ニ記セサルヘカ
ラス

ワノ書付ケヲ作ルニハ書記ニテ預カリテ
作ルソノ作リテモラフモノハ裁判ノ満足ニ
タルモノヨリ頼ムナリソノ時言立テタル等
ノ顛末ヲ残リナク認メ代書師ヨリ先方へ
君カ言立タル所只此通り相違ナカルヘ
シト言ヒ違ハス

若シ一方ノモノニテ不承知ノ一アルトキ

司法省

タトハ相續人ノ一ナラハ一ト通りニ相續ス
ルモノアリ親ノ財産文ケノ相續スルモノ
アリ財産文ケノ相續人へ一ト通りノ
相續人ノ如ク書イテ遣ハストキソノモノ
ハ財産文ノ外我カ財産へモ関スル一ア
ルユヘ迷惑スルナリワノトキハソノモノ
アリ二十四時間ニ使吏ヲ經テソノ身元
ノ書違ヒヲ裁決ノ上書直シテモラフ
ナリ

右等ノ如キ一アルユヘ過日モ危フキ一アル

ト言ヒタリ

右ノ如ク願ハサルトシテ書加ヘルトモアリ又
願ヒタルトシテモ書キ入レサルトモアリ始審
ナラハ控訴スヘシト雖モ終審ナレハ據ナ
クレケートシビルヘ出ワ
之レ止ムヲ得サルノ時ナリ成リ文ケハ控訴
スヘシ

右ニ付テハ二十四時間ニ故障ヲ述フルトシ
得ルユヘ憂クルニ足ラスト言フモノアルヘシ
ト虽モ万一二十四時ノ間ニ注意セスモテ

司法省

其時間ヲ過キテハ大キナル害ヲ生ス恐ル
可キナリ

如シ府縣裁判ノ終審又ハ控訴廳ノ裁判ナ
ラハ致方ナシ

ソノ時一方ノモノハ願サルトシテ書加ヘラレ
一方ノモノハ願ヒタルトシテ落サレタル等ニテ
雙方トモ不平ヲ懷ク等ノ時ハ止ムトシ
得スレケートシビルヘ出ヅルヨリ外ナ
シ

右等ノ間違アルトナラハ何ノ為ソニ惣テ

ノ書類ヲ書記官へ渡サ、ルヤト云フ
説アリ

タトヒフノ書類ヲ惣テ渡シタリトモ騰
寫ノ過チナシト云フヘカラスワノ過チニ
依テ財産文ケノ相續ヲ一ト通りノ相續
トナス等ニテ人民ノ迷惑トナルトキハソ
ノ罰ナカルヘカラス書記ニ責メノ帰スル
一甚タ重クシテ堪ヘサルニ至ルヘシ故ニ
寧ロ人民各自ニ我カ事ヲ為ス方可然
トノ説ニ因テ目下ノ如ク立テ、アリ

司法省

書記ノ責メヲ輕クセシト欲セハソノ書付
ケノ出来タルモノヲ三日間ニ来リテ一閱
セヨト云フソノ来リ閱スルト否ラサルト
ハ原告被告ノ勝手次第ナリ右ノ如クスレ
ハ書記ノ責メ輕キノミナラス原被告ノ責メ
モ輕クナルヘシ

第百四十一條此儘ニテ存スル方ヨロシ
第百四十二條リ改メテ

言渡書ハ諸書類ニ循ヒ書記ニテ作り原告被
告ノ代書人ハソノ書付ヲ見留ル為メニ三

日間ニ来リ見ルヘシ若シ三日間ニ来リ
見サレハ右ニ付テノ故障ハ消滅ス若シ
ソノ故障アルトキハ裁判官之レヲ
裁決ス

此ノ如クスル片ハ第四百一十一條ヨリ第四百十
五條マテハ不用ナリ

一説アリクノ書付ケハ書記ハ任セスニテ裁
判官ニヲ為ス方ヨロシト云フ

然レトモ裁判官裁判席ニテソノ書付ケ
ヲ作ルトニセハ数多ノ書類ニ統緒ナク

司法省

且事務多端ノ際ニ於テ甚ク時間ヲ消
費スルナリ

故ニ裁判官ハソノ訴訟ノ眼目ヲ領畧スル
ノミ一ノ諸書類ヲ讀ムト能ハス併シ夫切
リニテ捨置ク片ハソノ訴訟ノ顛末ヲ失
フニ至ル故ニソノ書キ付ケヲ作ル之レ
ヲ作ルトキハ委シク書カサルヲ得ス

因テ書完ニテ之ヲ作り原被告人三日間ニ
来リ見ル規則モスルトキハ代書師ノ手
数ヲ減スルニハ從ツテ其謝金モ亦タ減

スツノ減シタル金ヲ以テ書記ニ増ス方ヲ
ロシ

第百二十八條中ノ正本トハ何ナルヤ

裁判所ノ書記局ニ殘ルモノナリ

聴訟ノ簿冊トハ何ナルヤ

即席ニ言渡ス一ナラハ一二葉ナリ入り組

ミタル事柄ナルトキハ八日過キテ言渡ス

ツノトキハ數十葉モアリ一ノ簿冊ヲナス

ツノ場合ニ於テハ言渡書ノ書キ付ケテ

以テ讀ミ聞カス

司法省

ツノ簿冊ハ豫カシメ出来ラアルニアラス

ツノ事柄ニヨリ二三葉ヨリ数十百葉ニ

モ至ル之レヲ訂装シテ夫レノ簿冊ト

ナスナリ

第百三十七條ハ正本モ簿冊モ言渡シタル

文ケヲ書クナリ

第百四十二條ノ言渡書ハ言渡シノ濟ミタ

ル後ニ作ルナリ身元等ハ前キニハ書キ入レ

ス此條ノ場合ニテ書キ入レルナリ間違ヒ

ハ此時ニ出来ルナリ

第百四十三條ニ云フ所ロノ裁判言渡書トハ
代書師ノ草案ナリ

一ケ年間ノ裁判表ヲ作り一般ニ布告スル
方ヨロシ

此事ハ刑事ニ付テハ甚肝要ナリ

右ノ表ニヨリ内國人ト外國人ト比較シテ

外國人ニテ刑事ノ多数ナルトキハソノ政府

ノ代人即チ公使へ申越シ注意セシムル

トモ出来ルナリ

第百四十六條

司法省

裁判言渡書ノ寫ノ首尾ニハ佛蘭西共和政治五

国第十二年「プロレル」月ノ憲法ヲ以テ定メタル

所ノ文詞ヲ記ス可シ

之ヲ名ケテ裁判言渡ノ如ク
執行アラハ命スル定式ノ文詞

ト云
フ

佛ニテ裁判言渡ヲナスニ上席人ノ名ヲ以テス

ル「ナシ」王國ノ時ハ王ノ名皇帝ノ時ハ皇帝

ノ名今ハ佛國人民ノ名ヲ以テス

裁判官ハ政府ノ代理ナリ故ニ政府ノ名目ヲ

以テス

尤モ行政官ノ裁判言渡ハ少シク違フ

國議院ニテ裁判ス

タトヘハ佛國帝ニ依テ裁判スルト云フナリ
帝自カラ裁判スルト云フ意ナリ

之レ裁判官ノ帝ノ名代ヲ以テ裁判スルモノ
ト違フナリ

自今ハ帝ナシ故ニ人民自カラ裁判スルト云
フ帝ノ時ハ一人ノ政府ナリ故ニソノ名ヲ以テ
裁判スルナリ

自今ハ無形ノ政府ナリ故ニ國議院ニテ裁
判スルモ裁判所ニテ裁判スルモ同シ文

司法省

ナリ

帝ノ節ハ裁判官ハ帝ノ名代ナリ行政裁判
ハ親裁ナリ

自今ハ行政司法トモ人民ナリ

此條ノ大意ハ裁判官ノ名ヲ以テ裁判セサル
マテノ一ツ云フナリ

行政官吏タル地方官ハ布告等シナスニ自分
ノ名ヲ以テス

裁判官ハ自分ノ名ヲ以テスル一能ハス之レ代
理ナレハナリ

裁判官ハ自分ノ名ヲ以テセストモソノ
官ヲ輕クスルヤニテハ之レナシ何トナ
レハ裁判ハ帝自カラ裁判セサルヘカ
人ト虽氏手ノ届カサルユヘ代理ヲ命
スルモノナレハナリ

第百四十七條

總テ裁判所ノ言渡書ノ寫ハ之ヲ相手方ノ
代書師ニ送達シタル上ニ非レハ其言渡ノ如
ク執行ノ可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ
其言渡ノ効ナカル可シ又假ノ言渡ト確

司法省

定ノ言渡トヲ問ハス相手方ノ負訴訟トナ
ル言渡書ノ寫ハ相手方ノ代書師ノミニ非
ラス亦其本人又ハ其住所ニ之ヲ送達
ス可シ但シ其寫ニ代書師ニ別ニ同上ノ
寫ヲ送達シタル者ヲ附説ス可シ

第百四十八條

代書師既ニ死去シ又ハ其職務ヲ行フヘキヲ
止メシ時ハ本人ニ言渡書ノ寫ヲ送達シタ
ルトシ以テ是レリトス然レ其寫ニハ代書師
ノ死去シタルトシ又ハ其職務ヲ止メタルトシ

記ス可シ

本文ニツノ關係ノ代書師アルトキハツノ
言渡書ノ寫ヲ送達スルトアレトモ又席裁
判ノトキハ被告人ノ方ニ代書師アルトキ
ニ言渡書ノ寫ヲ送達スルト能ハス書
付ケテ言渡シタルハカリニテハ執行ヲ為
ストテ得ヌ必ラス代書師へ送達ス
假ノ言渡ト云フ是迄其例ヲ説カスト覺
ク今之レヲ説カン

司法省

トキ訴訟中假リニ言渡サ、ルヘカラサル
トマリ先ツ別居中ノ食料ノ一ツヲ言渡ス
等之レナリ

賣買ノ一ニ付テ訴訟トナルツノ品ツノマニ置
クトキ、腐敗スル品等ハ直チニ假リノ言渡
ヲナサルヘカラス靴帽又ハ菓子等直チニ
朽敗スルモノ等ハ假リノ言渡シヲ以テ賣
却シツノ代金ハ官ニテ預カルナリ

佛ニテハゴシナリシヨント云ヒテ大藏持チ
ニテ右ノ金ヲ預カル所ロマリ日本ニテモ

早ク右ヲ設ケヘキナリ

巴里ニテハ大藏持チナリ縣ニテハ大藏ヲ
リ出張スル租税ノ受取役ニテ之レヲ兼
マ

之レ良法ナリ若シ此設ケナケレハ裁判
濟ミシマテ其儘ニ捨置カサルヲ得ス然ル
トキハソノ品盡ク朽敗シテ用ヲナサス
徒ラニ多少ノ損害ヲ生スヘシ
佛ニテハソノ預カリ所口ニテ幾分ノ利息ヲ
出ス

司法省

久シキニ堪ユル品モノハ品ニテ預カリ朽敗ス
ル品モノハ賣テ金トナシ預カル
官ノ貸シ藏モアリソノ官主人ハ預リ品ニ損
敗ホノ一アレハ責アリ

確定ノ言渡トハ終審ノ一ヲ云フニアラス裁
判所文ケノ確定ナリ

相手方ノ負訴訟トナル云々トハ負訴訟
ノ者へ裁判入費ノ出セト言渡サレサルハ
即チ罰ナリ原被告分ノ理アルトキハ入費
ヲ出スノ罰ナシソノ時ハ代書師ニ送達

スルノミニテ足レリソノ本人へ送達スル
ニ及ハス

負訴訟ト負ノ字ヲ下シタルハ譯ノ誤リナリ
罰文アルト改ムヘシ罰文トハ何カニ處スルノ文
アルモノ惣テ借金并ニ裁判
入費ヲ拂フヘキ等
ノ文ニシテナリ

書記ヨリ出ス寫ハ一通ナリ之レハ勝方ノ手
ニ入ルソノ書キ付ケヲ使吏ニテ寫シ一通
ヲ代書師へ送達シ又一通ヲソノ本人へ
送達ス

司法省

被告ノ連帶シタルトキソノ事柄ノ同シキト
キハ一通ニテ足ルト虽トモ連帶セサル事
柄ニシテ罰ヲ受クヘキモノ十人アレハ十通
ヲ寫シテ送達ス
タトハ人ニ百圓ヲ借シタリト訴フルニソ
ノ人先キニ返シタル證アルトキハソノ訴訟
ハ取揚スト言渡ス之レ確定ノ裁判言渡
ナリ故ニ確定ノ裁判ニテモ罰ナキナリ
此類之レナリ

右ノ場合ニ於テソノ返シタル金ノ受取書
キヲ被告人ヨリ初メニ出スヘキヲ出サス